

V. 実践報告書

実践報告書の内容一覧

No.	名前	対象	時間数	テーマ	タイトル
1	伊藤彰	高校1～3年生 (講座選択者17名)	9	貧困 異文化理解	Stop Poverty ～貧困をなくそう～
2	伊藤聡子	小学校5年生 (112名)	9	人権、貧困	あなたの幸せはわたしの幸せ ～ふだんのくらしのしあわせ～
3	伊藤知世	小学校5年生 (39名)	9	人権、貧困	わたしたちみんな地球人
4	菊地純奈	小学校3年生 (29名)	4	環境	もしかしたら、 この生ごみは〇〇かもしれない？！
5	高口涼	小学校2年生 (29名)	4	食、 国際理解	国旗 & 食べ物 de 国際理解
6	児玉やこ	中学校1年生 (130名)	2	人権、貧困	世界の仲間と笑顔に ～みんな幸せ、だから幸せ～
7	澤田直美	高校2年生 (40名)	2	食、共生 貧困	食でつながる世界と日本
8	地頭綾香	高校1年生 (36名×2クラス)	3	貧困	Well-being な社会を実現するために ～貧困を事例として～
9	諏訪部景子	小学校5年生 (97名)	7	人権、教育 貧困	誰もが夢をつかめる世の中に
10	森谷朋香	小学校5年生 (21名)	8	環境	取り組もう！ゴミミッション！！
11	山本実穂	小学校5年生 (31名)	4	多様性、 人権	教室ダイバーシティ ～ともに暮らす～
12	遠山桂吾	教育センター職員 (37名)	1.5	貧困	SDGs で世界を見てみよう

Stop Poverty ～貧困をなくそう～

学校名	愛知県私立黄柳野高等学校		授業者氏名	伊藤 彰
対象学年 (人数)	高校1～3年生(17名)		実践年月 (時数)	2022年 11月～12月 (9時間)
担当教科等	総合的な探究の時間			
単元名 (活動名)	Stop Poverty ～貧困をなくそう～			
実践する 教科・領域	総合的な探究の時間			
学習領域	<p>A 多文化社会 … 文化理解(○) / 文化交流() / 多文化共生()</p> <p>B グローバル社会 … 相互依存() / 情報化()</p> <p>C 地球的課題 … 人権(○) / 環境(○) / 平和() / 開発()</p> <p>D 未来への選択 … 歴史認識() / 市民意識() / 社会参加()</p>			
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ネパールを通して、日本とのつながりを知り、世界を身近に感じる ・ネパールを通して貧困問題の現状を知り、自分事として捉え、私たちに何ができるか考え実行できるようになる。 			
単元の 評価規準	知識および技能	<ul style="list-style-type: none"> ・ネパールと日本との共通点を探り、世界を肯定的に捉えることができる ・課題探究に必要な情報を調べ、挙げるができる 		
	思考力、判断力、 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・ネパールの貧困となる原因を追究し、現地の方との交流を通して課題解決に向けた意見を交換することができる。 		
	学びに向かう 力、人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困問題を解決するため、私たち(個人)にできること、学校(団体)でできることについて考え、行動に移すことができる 		
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の貧困問題は依然として早急に解決すべき重要課題であるが、今もなお世界では貧困で苦しみ、貧困が原因で命を落としている人たちが多くいる。また日本でも近年は子どもの貧困問題が表面化し決して遠くの国で起こっている問題ではなくなってきている。今回はネパールの現地の方とのオンライン交流を通して、現地の実情を知り、より身近に感じることで自分事として捉え、同じ地球に生きる一人の人間として助け合う意識を育みたい。また、この貧困問題に目を向け、解決することで世界がどのように変化していくのかを想定し、実際に行動できる人物を育てたい。 			

[単元計画 (全9時間)]

時	ねらい	学習活動	資料など
1・2	ネパールと日本のつながり、共通点について知り、肯定的に出会う	1. アイスブレイク ⇨ 「これまでに訪れた国で良かった国は？」または「いつか行ってみたい国は？」 ⇨ 理由を添えてグループ交流する 2. 国名当てクイズ！ ⇨ ネパールの写真を4枚見せて、どの国の写真をグループで言い当ててみる。 3. ネパールの印象は？ ⇨ 写真をもとに、写真から想像するネパールについて自由に意見を出し合う【フォトランゲージ】 4. ネパールクイズに挑戦！ ⇨ ネパールのクイズに挑戦し、ネパールと日本の共通点や相違点に気づく 5. 質問を考えよう！ ⇨ 次回のネパール人との交流に向けて、肯定的に捉えるための質問を考える 6. まとめ ⇨ 今回の授業で気づいたことの振り返りと共有 【グループ内発表】	ネパールの写真 (自分で撮ったもの) AIAの資料 (ネパール編)
3・4	食文化を通してネパールをより身近に感じ、ネパールと日本の共通点に気づく	1. 地元のネパール料理店「フェワ」を訪問してみよう！ ① ネパールを代表する料理「モモ」と「サモサ」の材料の説明を聞き、作り方を実演していただく ② ネパールと日本の食材の共通点の多さに気づく ③ 店長からネパールについて伝統や文化について話をしていただく ④ 店長に事前に準備した質問をして、交流を図る 2. まとめ ⇨ 各自でワークシートに記入	インタビュー ワークシート
5・6	ネパールが抱えている課題について知り、他の途上国の同様な課題について知る課題解決のために他国で行われている支援の実態について知る	1. 農業支援の実践を知ろう！ ⇨ ルワンダ(コーヒー生産地と協働する会)とネパール(farmers passion)における農業支援の実態を知る 2. 自分たちで課題を調べてみよう！ ⇨ ネパールの方が抱える課題について自分たちで調べて整理する ⇨ 次回のネパールとのオンライン交流に向けて質問を考え、グループで整理する	JICAの研修動画 farmers passion のHP・ブログ等
7・8 本時	現地のネパール人との交流を通して、現地の現状と現地の方たちの思いを知り、課題解決のための糸口をつかむ	1. 現地の方と交流してみよう！ ⇨ farmers passion 代表の池島氏、現地農園スタッフを招き、またオンラインで現地スタッフの三者を通じた意見交流会を行う ⇨ 現地の方が抱える課題に焦点を当て質疑応答を行う	パワーポイント (Farmers Passion 作成)
9	まとめ	1. 行動宣言を考えてみよう！ ⇨ 学校としてできること、私たちにできることの2つの視点でまずは個人で考える ⇨ グループワークにて行動宣言を共有する	

[本時の展開 (7・8時間目)]

ねらい	● 支援者、現地のネパール人との対面交流・オンライン交流を通して、現地の現状と現地の方たちの思いを知り、課題解決のための糸口をつかむ。		
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
10分	0. 現地とのオンライン接続確認		
10分	1. 前回学習した内容の振り返りと質問事項の整理		
(65分)	2. 対面交流・オンライン交流をしよう		
10分	①自己紹介(生徒) <ul style="list-style-type: none"> 名前を中心に簡単な自己紹介を行う 	<ul style="list-style-type: none"> 質問者の確認 あいさつはネパール語を使ってみよう 	前回のワークシート
10分	②Farmers Passion の取り組み紹介(池島氏) <ul style="list-style-type: none"> 団体の現地での取り組み内容を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ワークシートにメモを取らせる 	パワーポイント資料(池島氏作成) ワークシート
20分	③現地農園スタッフの話(ウビット氏・ラジ氏) ※対面でウビット氏、オンラインでラジ氏の話聞く <ul style="list-style-type: none"> 支援前と支援後の変化について 日々の暮らしの変化について 現状の課題(ネパール全体が抱えている) 	<ul style="list-style-type: none"> 現地の方がどのような思いで団体と協働しているのかに注意して聞いてもらう 	
10分	④Farmers Passion 代表池島氏の話 <ul style="list-style-type: none"> ネパールで支援を始めたきっかけを知る 長年にわたる現地支援の様子を知る 支援において大切にしていることを知る 	<ul style="list-style-type: none"> 活動を通して何を大切にし、どんなことに苦労しているか。成果と課題の両面を意識して聞く 	
10分	⑤現地農園スタッフと池島氏との質疑応答	<ul style="list-style-type: none"> 事前学習で用意した質問を各グループで質問する 	前回ワークシート
5分	⑥生徒へメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> 自分たちに何ができるかという視点を大事にする 	
	⑦終了		
15分	3. まとめ <ul style="list-style-type: none"> 本時でわかったこと、感じたことを書く。 現地で抱えている課題を整理する グループで発表(共有)する 		ワークシート
評価規準に基づく本時の評価	<ul style="list-style-type: none"> 実際に支援者と現地の方と直接交流できたことで、これまで遠い国の課題として捉えていたことが身近な出来事として感じる事ができた。 これまで肯定的に出会ってきた学習内容が生かされ、本時でも興味関心を持って聞くことができた。 課題解決に向けた質問をして、課題の整理をすることができた。 		

[総括・まとめ]

学習方法および外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な参加を促すために、グループワークと共有(発表)を毎時取り入れるようにした。 ・現地とのつながりを通してより身近な課題として捉えるため、現地農園で働くネパール人との交流、そして現地で農業・技術支援を行っている Farmers Passion 代表の方と現地スタッフとオンライン交流を行った。
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ネパール学習のまとめをチラシにまとめ全保護者に配布し、また地域の事業所の方に配布し広報した。 ・今回の取り組みを総合探究の活動報告会にて、全校生徒および市長、教育長、地元の方に発表する(2023年3月予定)。
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・グループワークに慣れていなかったため、前半は取り組みに時間がかかった。 ・現地の方との交流では事前に質問等は準備したが、本番では消極的になって積極的に質問する姿が少なくなりました。 ・現地の方との交流では、「貧困」というキーワードの取り扱いが難しく、交流の中で深掘りできなかった。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン接続に予想外の時間がかかり、予定時間に始めることができなかったため、事前に接続チェックを試すべきだった。 ・交流会本番では消極的な姿勢が目立ってしまったので、誰が質問するかまで担当を割り振っておくべきだった。 ・「貧困」というキーワードについての学習が不足したため、貧困が引き起こす問題について十分な理解が得られなかったと感じた。
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・肯定的に出会うことでネパールの良いところを知り、生徒の興味を引き出すことができた。 ・オンラインだけでなく、直接現地の方と対面交流できたことで、思いが伝わりやすく、遠い世界のできごとでなく自分事として考えるきっかけとなった。 ・学習の成果としてチラシを作成し、地元の方に学習の成果を説明しながら配付することができた。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・私たちの知らない苦難がたくさんあることを知り、ネパールの方と交流できたことにより、私もできる限り助けになりたいと思った。 ・今まで何ごとも日本の文化を中心に考えてきましたが、日本とは違う他文化を学ぶことによって視野が広がりました。 ・まずネパールの現状について知ってもらわないと何も始まらない。ネパールについて知り、課題意識を持つことが課題解決の第1歩！
授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は現地の方と直接対面して交流することに重点を置いた。人と人が直接関わる中で生まれる感覚、印象、感動は学習者たちにとって今後も継続的な学習を行っていく上で重要な要因となっていくと考える。 ・肯定的に出会うことの重要性、そして日本との類似点を認識することで関心を引き出せた。それから海外で起こっている問題が他人事ではなく自分たちにも関係があると気づくことで次のアクションにつなげていくことができると感じた。
単元構想・実施における参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の国を知る・世界の国から学ぶ「わたしたちの地球と未来」ネパール http://www2.aia.pref.aichi.jp/koryu/j/kyouzai/PDF/H21/Nepal.pdf ・教師国内研修における研修動画(ルワンダ) ・ネパールの写真(自分で撮ってきたもの)

[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]



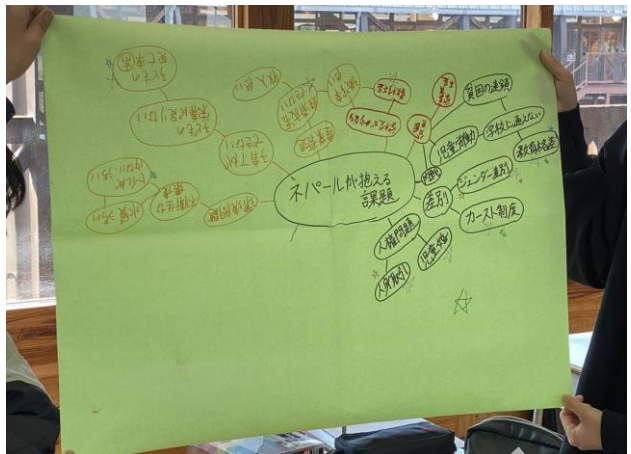
1・2回目 どこ国? & フォトランゲージ



3・4回目 ネパール料理店訪問&交流



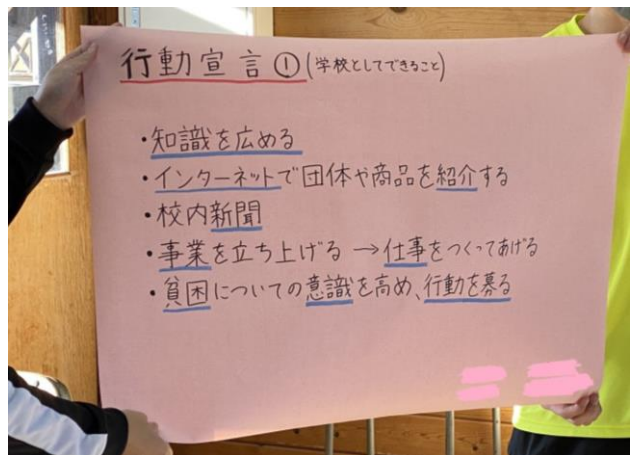
3・4回目 ワークシート



5・6回目 ネパールが抱える問題【派生図】



7・8回目 現地の方と交流



9回目 行動宣言

あなたの幸せは わたしの幸せ ～だんの らしの あわせ～

学校名	愛知県海部郡蟹江町立蟹江小学校	授業者氏名	伊藤 聡子
対象学年 (人数)	小学校5年生(112名)	実践年月 (時数)	2022年12月～2023年1月 (9時間)
担当教科等	全科		
単元名 (活動名)	ともに生きる～つなげよう笑顔～		
実践する 教科・領域	総合的な学習の時間		
学習領域	<p>A 多文化社会 … 文化理解 (○) / 文化交流 () / 多文化共生 ()</p> <p>B グローバル社会 … 相互依存 () / 情報化 ()</p> <p>C 地球的課題 … 人権 (○) / 環境 () / 平和 () / 開発 ()</p> <p>D 未来への選択 … 歴史認識 () / 市民意識 (○) / 社会参加 ()</p>		
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・他国の文化や習慣を知り、日本との共通点や相違点に気づく。 ・あってはいけない違いを放置するとどうなるのか、解決にはどんな方法があるのかを考える。 ・一人ひとりが幸せに暮らせる社会に向けて、自分にできることを見つけて行動につなげる。 		
単元の 評価規準	知識および技能	<ul style="list-style-type: none"> ・他国の文化や習慣を知ったり、日本との共通点や相違点に気づいたりするとともに、あってはいけない違いがあることを理解している。 	
	思考力、判断力、 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・あってはいけない違いを放置することで貧困のサイクルから抜け出せなくなることに気づくとともに、解決にはどんな方法があるのかを考えている。 	
	学びに向かう力、 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間の考えを受け入れながら課題解決に向けて学び合うことで、自分の行動を見直し、一人ひとりが幸せに暮らせる社会に向けて、自分にできることを見つけようとしている。 	
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	<ul style="list-style-type: none"> ・本学年の児童は、4年生の総合的な学習の時間に環境問題についての調べ学習を行い、SDGs と関連させながら学習を進めてきたため、SDGs への関心が高い。今年度はこれまでに、車いすや手話、ポッチャの体験をしたり、福祉についての調べ学習を進めてきたりした。学習を進める中で、児童は「福祉＝障がいのある人」ではないことに気づき、広い視野で福祉を捉えられるようになってきた。そこで、世界の人権問題などの国際理解教育に関する内容を扱ったり、SDGs との関わりも考えたりしながら、福祉についての考えを深めさせていきたい。 ・本単元では、「ふだんの ぐらしの しあわせ」という視点で、世界や身近な課題に目を向け、自分たちの身近にある「まち」や「学校」の課題に対して自分にできることを見つけることができるような授業展開を考えた。導入では、留学生との交流会の中で世界と肯定的に出会うことで、世界を身近に感じ、世界に興味をもつことができるような流れを作っていきたい。さらに、毎時間、「どうなっているんだろう」と疑問を残したり、「もっと知りたい」と興味をもたせたりすることができるように展開を工夫していく。 ・世界や身近な課題を自分のこととして捉えられるようにするためには、知識を得るだけでなく、行動へとつながる気づきのある学びが大切であると考えている。そこで、単元全体を通して、児童が自ら考え、気づくことができるように様々な参加型の学習を取り入れたり、振り返りの時間を大切にしたりしていきたい。 		

[単元計画（全9時間）]

時	ねらい	学習活動	資料など
1～3	・他国に興味をもち、文化や習慣が違うことのおもしろさを味わう。	<u>「世界の国と出会う！</u> <u>～日本福祉大学の留学生との交流会～</u> ①中国とネパールの挨拶や言葉、文化を知る。 ②ベトナムの遊びを体験する。 ③「新しい発見でおもしろい！と思ったこと」を3つ選ぶ。 【ランキング】	・日本福祉大学の田中先生に講師依頼（中国、ネパール、ベトナムからの留学生）
4	・他国と日本とは共通点や相違点があることに気づく。	<u>「日本の当たり前が世界の当たり前ではない!」</u> ①「新しい発見でおもしろい！と思ったことベスト3」をグループ内で伝え合う。 ②交流会で学んだことの中から、日本との共通点と相違点に分けて書き出す。【対比表】 ③各グループの対比表の回し読みをし、自分と同じ考えに☆印をつける。【回し読み】	
5	・あってもいい違いとあってはいけなない違いについて考える。	<u>「あってもいい違いとあってはいけなない違いって!」</u> ①前時に作成した対比表の相違点の中から、あってもいい違いに○印、あってはいけなない違いに△印をつける。 ②ちがいのちがいがカード8枚を、あってもいい違いとあってはいけなない違いに分類する。【対比表】 ③各グループで分類したカード8枚を全体で共有する。 【プレゼンテーション方式】	・ちがいのちがいがカード8枚（タブレットの学習活動ソフトウェアを活用）
6～7 本時	・あてははいけなない違いを放置すると、どうなるかを考える。 ・貧困から抜け出すために、どこをどのように断ち切るとよいかを考える。	<u>「あてははいけなない違いを放置すると…?」</u> ①ちがいのちがいがカードを分類した時に、迷ったカードとその理由をグループ内で伝え合う。 ②ちがいのちがいがカード3・5・7の実際のストーリーを知る。 ③支援を受けられなかった場合を貧困の輪で考える。 【因果関係図】 ④貧困の悪循環を断ち切るには、どこをどんな方法で断ち切るとよいかを考え、貧困の輪に書き込む。 ⑤実際に行われている支援のカードを貧困の悪循環へ貼り、支援の方法を知る。【マッチング】 ⑥貧困の輪の中で SDGs に関連しているものの番号シールを貼る。	・3人のストーリー（3:フィリピンのストリートチルドレン、5:ルワンダのコーヒー農家、7:インドネシアの障がい児） ・貧困カード8枚（タブレットの学習活動ソフトウェアを活用） ・教師国内研修で出会った団体の支援内容を書いたカード
8	・身近にある課題に目を向け、一人ひとりが幸せに暮らせる「まち」や「学校」にするためにできることを考える。	<u>「一人ひとりが幸せに暮らせる『まち』や『学校』にするためには?」</u> ①前時に作成した模造紙の回し読みをし、他のグループの考え方を知る。【回し読み】 ②「まち」や「学校」のイラストから、どんな人がどんなことに困っているのかを付箋に書き出し、イラストの近くに貼る。【ブレンストーミング】 ③「国・地域」「仲間」「自分」の3つの視点から、できることを考える。【行動計画】	・愛知県社会福祉協議会・名古屋市社会福祉協議会「福祉読本『ともに生きる』」
9	・一人ひとりが幸せに暮らせる社会にするために、自分にできることを見つける。	<u>「一人ひとりが幸せに暮らせる社会にするために、自分にできることは?」</u> ①前時に作成した行動計画の回し読みをし、「いいな」と思うものに☆印をつける。【回し読み】 ②他のグループのいいなと思うものを、行動計画に付け加える。 ③自分にできることを書き、グループの仲間に宣言する。 【行動宣言】 ④グループの仲間の宣言に対して、応援メッセージを書く。	

[本時の展開 (6時間目)]

ねらい	・あってはいけない違いを放置すると、どうなるのかを考える。		
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
導入 8分	1. 前時を振り返る。 「ちがいのちがいカードを分類した時に、迷ったカードとその理由をグループ内で伝え合いましょう。」 2. ちがいのちがいカード3・5・7の実際のストーリーを知る。 「実際のストーリーを読みながら、大事だと思うところや気になるところに線を引きましょう。」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> カード3: フィリピンのストリートチルドレン カード5: ルワンダのコーヒー農家 カード7: インドネシアの障がい児 </div>	・4~5人で一つの班を作る。 ・1~3班にはカード3、4~6班にはカード5、7~9班にはカード7のストーリーを配布する。	・前時に作成した対比表(タブレットの学習活動ソフトウェアを活用) ・教師国内研修で出会った3人のストーリー
展開 30分	3. あってはいけない違いを放置すると、どうなるのかを考える。 (1) 貧困カード8枚の内容を知る。 「カード8枚の内容をグループ内で確認しましょう。」 (2) 貧困カード8枚がどのような関係でつながっているのかを考える。【因果関係図】 「色の付いたカードを一番上に置き、残りの7枚のカードがどのようにつながっていくのかを考え、右回りの円に並べましょう。」 4. 他のグループのストーリーの内容や貧困カードの並べ方について知る。 「各グループがどのように貧困カードを並べたのかを発表しよう。」 <児童が考えた貧困の輪の例> <div style="text-align: center;"> </div>	・分からない内容のカードがあれば全体で確認する。 ・タブレットを使用し、個人で考えた後、班で一つの貧困の輪を考えさせる。 ・一番上に置いたカードの内容を放置すると、次にどんなことが起こりそうなのかを考えさせる。 ・貧困カード8枚のつながり方は考え方によって様々であり、正解はないことを伝える。	・貧困カード8枚 (タブレットの学習活動ソフトウェアを活用) ※第6・7時の参考資料 ・独立行政法人国際協力機構 中部国際センター「教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻」 ・独立行政法人国際協力機構 中部センター「JICA 中部 教師海外研修ガイドブック」
まとめ 7分	5. 本時の振り返りをする。 「今日の活動を通して、思ったことや考えたことなどを振り返りシートに書きましょう。」 6. 次時の予告を聞く。 「次回は貧困の輪を断ち切るための方法を考えましょう。」	・一つの問題を放置すると、次から次へと問題が起こる悪循環につながることに気づかせる。 ・本時の活動での気づきを、グループまたは全体で共有する。	
評価規準に基づく 本時の評価	・前時に分類した「ちがいのちがいカード」の中の3つの実際のストーリーを扱うことで、世界の課題を身近に感じながら考えを深めることができた。 ・あってはいけない違いを放置すると、様々な問題が発生し、貧困のサイクルから抜け出せなくなってしまうことに多くの児童が気づいた。		

[本時の展開 (7時間目)]

ねらい	・貧困から抜け出すために、どこをどのように断ち切るとよいのかを考える。					
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料			
導入 3分	1. 前時を振り返る。 「前回の時に、各グループで作った貧困の輪を見ながら、思ったことや考えたことをグループ内で伝え合いましょう。」	・前時にタブレットで作成した貧困の輪を模造紙に印刷しておく。	・前時に作成した貧困の輪			
展開 35分	2. 貧困の悪循環を断ち切るための方法を考える。 「貧困へとつながる輪を断ち切ることができると思うところに線を引き、どんな支援の方法があるのかを考え、付箋に書き出しましょう。」 <児童が考えた支援の例> ・仕事がみつからない → 簡単な仕事を増やす ・学校に行けない → いろいろな人に勉強を教えてください ・貧困 → 生活保護を受ける 3. 実際に行われている支援の方法を知る。【マッチング】 「実際に行われている支援カードを読み、断ち切ることができると思ったところに貼りましょう。」 <配布した支援カードの一部> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> アジア車いす交流センター [WAFCA (ワフカ)] [タイ・中国・インドネシア] ・車いすの提供 ・奨学金 (学校に通うためのお金) の支援 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> コーヒー生産地と協働する会 [ルワンダ] ・土を豊かにするための技術を教えることで、コーヒーの取れる量を増やす。 </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;"> アイキャン【フィリピン】 ・栄養のある食事や安全に眠る場所の提供 ・通学にかかるお金のほじょ </td> </tr> </table>	アジア車いす交流センター [WAFCA (ワフカ)] [タイ・中国・インドネシア] ・車いすの提供 ・奨学金 (学校に通うためのお金) の支援	コーヒー生産地と協働する会 [ルワンダ] ・土を豊かにするための技術を教えることで、コーヒーの取れる量を増やす。	アイキャン【フィリピン】 ・栄養のある食事や安全に眠る場所の提供 ・通学にかかるお金のほじょ	・前時のストーリーの中に書かれている支援を見つけさせる。 ・支援の方法がなかなか思いつかない場合は、同じストーリーのグループ同士で成果物を共有し、新たな考えを付け足すようにする。 ・支援カードの裏にある現状を確認してから、表の支援の内容を読むようにさせる。	・教師国内研修で出会った団体の支援の内容を書いたカード[アジア車いす交流センター、コーヒー生産地と協働する会、アイキャン、学び舎つばさ、DIFAR、JICA セネガル、JICA エジプト、JICA ラオス]
アジア車いす交流センター [WAFCA (ワフカ)] [タイ・中国・インドネシア] ・車いすの提供 ・奨学金 (学校に通うためのお金) の支援	コーヒー生産地と協働する会 [ルワンダ] ・土を豊かにするための技術を教えることで、コーヒーの取れる量を増やす。	アイキャン【フィリピン】 ・栄養のある食事や安全に眠る場所の提供 ・通学にかかるお金のほじょ				
まとめ 7分	4. SDGs との関連を考える。 「貧困の輪の中で、SDGsに関連しているものにSDGsの番号シールを貼りましょう。」 5. 本時の振り返りをする。 「今日の活動を通して、思ったことや考えたことなどを振り返りシートに書きましょう。」 6. 次時の予告を聞く。 「次回は身近な課題に目を向け、誰もが安心して生活することのできる『まち』や『学校』にするためにできることを考えましょう。」	・紹介したものは一部の支援であることを伝える。 ・多くのことがSDGsと関連していること、世界中のみんなが解決していかなければならない問題であることに気づかせる。 ・本時の活動での気づきを、グループまたは全体で共有する。				
評価規準に基づく 本時の評価	・貧困の悪循環を断ち切るためには、カードに書かれたすべてのことを支援する必要があることに気づくことはできたが、具体的な支援の方法はなかなか出てこなかった。ヒントとして、教師国内研修で出会った団体が支援している内容を書いたカードを用意することで、それぞれの問題に対する支援の方法を知ることができた。 ・実際に支援をしている団体の活動の様子を見せたり、やりがいなどの活動に対する思いを知らせたりすると、支援の必要性について、より理解できたのではないかと思う。 ・ほとんどの児童は、「何かしらの支援を受けないと、貧困の悪循環を断ち切ることはできない」ということに気づくことができた。さらに、「支援をしている人たちのことをもっと知り、自分にできることを見つけていきたい」という思いをもった児童もおり、次時への意欲につながった。					

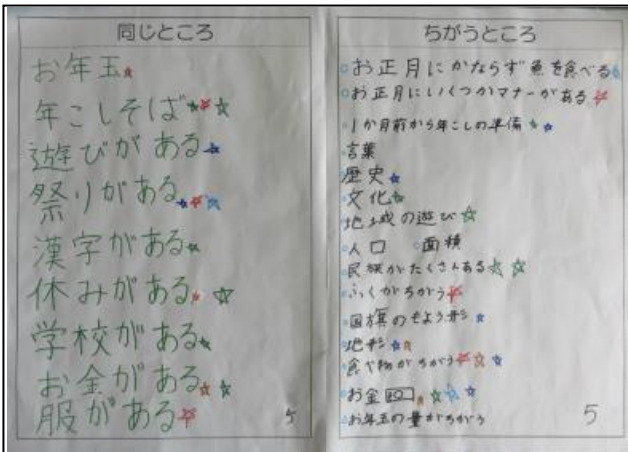
〔総括・まとめ〕

学習方法および外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・本単元の導入では、写真などの映像ではなく、人との関わりの中で自分の知らない世界と肯定的に出会わせたいと考え、日本福祉大学の田中真由美先生に留学生との交流会の依頼をした。 ・単元全体を通して、子どもたちが自ら考え、気づくことができるように様々な参加型の学習を取り入れたり、振り返りの時間を大切にしたりした。また、毎時間、「どうなっているんだろう」と疑問を残したり、「もっと知りたい」と興味をもたせたりするような流れを意識した。
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・校内の研究授業として第5時の授業を公開し、先生方に見ていただいた。 ・本学年の総合的な学習の時間の内容に合わせた単元を設定し、来年度以降も継続して実施することができるようなプログラムを作成した。
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・本校5年生の総合的な学習の時間では、福祉に関する学習を行っている。その中で、国際理解教育に関する内容を取り入れながら、福祉についての理解も深められるようなプログラムを作成することに苦労した。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・世界や身近な課題を解決するための方法を考えることはできたが、自分のこととして捉えることは難しかった。毎時間の振り返りの中で、「自分が〇〇したい、自分には〇〇ができる」という行動につながる言葉より、「〇〇になってほしい」という願いの言葉の方が多かったため、子どもたちの意識や行動を変えるような手だての必要性を感じた。本単元では、実際に支援を受けた人たちの生の声を聞くことが、自分のこととして捉えることにつながるのではないかと思う。 ・支援についての理解を深めるためにも、実際に国際協力をしている方々の活動の様子を見せたり、やりがいなどの活動に対する思いを聞かせたりする時間を設けることができるとよかった。
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・導入で日本福祉大学の留学生との交流会を実施したことで、「文化が違うっておもしろい」などと新たな学びを得ることができ、単元全体を通して、楽しみながら活動を進めるきっかけとなった。 ・毎時間、参加型の学習を取り入れたことで、「グループで話し合いながら、いろいろな考えを見つけることができた」「人によって考え方が違うこと、自分とは違う考え方があることを学ぶことができた」と学びを深めることができた。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>《児童の振り返りの抜粋》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1～3時…国によって、いろいろな文化があっておもしろい。国によって言語や文化、遊びが異なるんだと思った。どの国も伝統や文化を大切にしていたので、ほくも大切にしたいと思った。 ・第4時…日本と同じところもあれば、違うところもあっておもしろい。 ・第5時…世界中で違いというものはたくさんあることが分かった。国の文化や伝統の違いはあってもいいと思うけれど、差別になるような違いはあってはいけないと思った。 ・第6時…あってはいけない違いをそのままにすると、貧困のサイクルから抜け出せないままで、一生不自由な生活を強いられることになる。学校に行けなくなると、やりたいことができなかつたり、将来の夢が叶えられなくなったりする。 ・第7時…たくさんの支援があり、その支援を受けて幸せに過ごせるようになった人がたくさんいる一方、まだ支援を待っている人がいると思うと助けたいと思った。 ・第8時…学校では実際に経験した出来事もあったので、その時にどうすればよかったのかを改めて考えることができた。自分一人でも、いろいろなことができると思ったので、これからは自分にできることを頑張ろうと思う。 ・第9時…行動宣言「困っている人がいたら相談に乗る。黒人、白人、障がい者など関係なく困っている人がいたら助ける、声をかける。手話を勉強する。周りをよく見て行動する。」
授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・個人でじっくりと考えさせたいアクティビティではタブレットを使用し、グループで多様な意見を取り入れながら考えさせたいアクティビティでは、付箋や模造紙などの紙媒体を使用するなど、使い分けをした。
単元構想・実施における参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・独立行政法人国際協力機構 中部国際センター「教室から地球へ 開発教育・国際理解教育 虎の巻」 ・独立行政法人国際協力機構 中部センター「JICA中部 教師海外研修ガイドブック」 ・大阪府のホームページ「人権学習シリーズちがいのちがいのとびら 私たちの多様性」 ・愛知県社会福祉協議会・名古屋市社会福祉協議会「福祉読本『ともに生きる』」

[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]



▲ 第1～3時 日本福祉大学の留学生との交流会の様子[中国・ネパール・ベトナム]



▲ 第4時 日本との共通点や相違点【対比表】



▲ 第5時 あってもいい違いとあってはいけない違い【対比表】



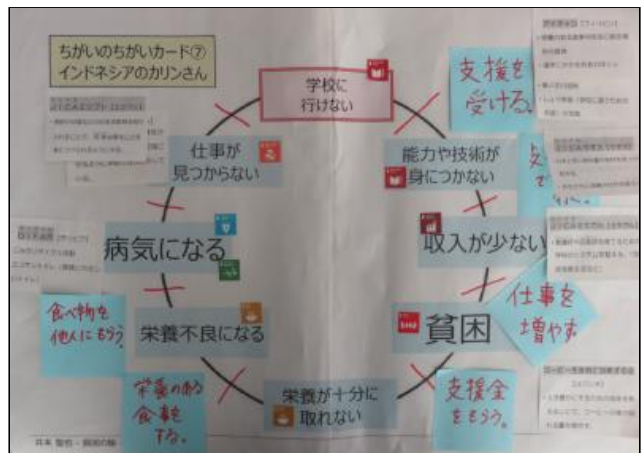
▲ 第6時 どんなストーリーなのかな?!



▲ 第6時 支援を受けられなかった場合を考えると…【因果関係図】



▲ 第7時 この支援カードはここかな?【マッチング】



▲ 第6・7時の成果物【因果関係図】



▲ 第8時 どんなことに困っているのかな?～学校編～【プレスト】



▲ 第8時 どんなことに困っているのかな?～まち編～【プレスト】

国・地いきができること	自分にできること
・学校にエレベーターを 設置する。☆☆☆☆☆☆☆☆ ・手話ができるボランティアに来て もらう。☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆	・荷物を持ってあげる☆☆☆☆ ・けんかを止める☆☆☆☆ ・声をかけてあげる☆☆☆☆ ・保健室につれて、てあ げる。☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ ・注意する。かたきかして あげる。☆☆☆☆☆☆☆☆ ・耳がきこえない子に 気をつけて接する☆☆☆☆☆☆☆☆

▲ 第8時 できること～学校編～【行動計画】

仲間とできること	自分にできること
・困っている人に声をかける☆☆☆☆ ・にん婦さんが立っていたら 荷物をどけて席をゆずる☆☆☆☆ ・障害者がいたら道案内を する。☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ ・車イスの人がいたら取りたい 物をかわりに取ってあげる☆☆☆☆ ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ ・困っている人がいたらかわりにやる ☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆ ・ヘルプマークを付けている人がいたら 声をかける☆☆☆☆☆☆☆☆	・手伝いをする。☆☆☆☆ ・気づいてあげる☆☆☆☆ 助ける。☆☆☆☆☆☆☆☆ ・声をかける。☆☆☆☆ ・やさしく☆☆☆☆☆☆☆☆ ・むしをしらない。(見て 見ぬふりをしない)☆☆☆☆ ・よりそってあげる☆☆☆☆ ・手話の本をもちあそぶ☆☆☆☆ おく。☆☆☆☆☆☆☆☆

▲ 第8時 できること～まち編～【行動計画】

一人ひとりが幸せに暮らせる「まち」や「学校」づくりのために、
わたしは
 黒人、白人、障害者など、関係なく、こまっっている
 人がいたら助ける、声をかけるなど
をすることを宣言します!

▲ 第9時 自分にできること【行動宣言】

一人ひとりが幸せに暮らせる「まち」や「学校」づくりのために、
わたしは
 手話を勉強
をすることを宣言します!

▲ 第9時 自分にできること【行動宣言】

外国と日本では様々なちがいがあつた。服やのちがいや
 伝統行事のちがいなど。その国の昔からの文化やルール。
 でもあつてはいけないちがいもあつた。貧困で学校に行く
 お金がない。障害があるのに貧困で車イスが買えない。
 「子どもときから仕事」。飯が買えない。など。たしかにち
 がいだけと絶対にあつてはいけないと思つた。その中でい
 ろんな支援やSDGsの取り組みがあつたことかつた。まだ
 支援を速くで待っている人がいると思つた。また社会には大き
 な問題がたくさんあると思つた。10年後、20年後未来
 がよくなつていけばいいと思つた。

▲ 単元を終えての振り返り

世界には色々な国があつて、その中でもその
 国だけの文化や習慣があつたことを知れて、
 すてきだなと思つた。
 世の中には貧困の人もいるから、食べ物を
 残さずしっかり食べることやむだ使いをし
 ないということを心がけようと思つた。
 一人ひとりが幸せに暮らすには自分だけじゃ
 なく町や学校にもするこつがある、ということ
 を知りました。

▲ 単元を終えての振り返り

わたしたちみんな地球人

学校名	三重県桑名市立日進小学校	授業者氏名	伊藤 知世
対象学年 (人数)	小学校5年生(39名)	実践年月 (時数)	2022年10月～12月 (9時間)
担当教科等	全科		
単元名 (活動名)	地球人としてどう生きるか		
実践する 教科・領域	総合的な学習の時間		
学習領域	<p>A 多文化社会 … 文化理解 () / 文化交流 (○) / 多文化共生 ()</p> <p>B グローバル社会 … 相互依存 () / 情報化 ()</p> <p>C 地球的課題 … 人権 (○) / 環境 () / 平和 () / 開発 ()</p> <p>D 未来への選択 … 歴史認識 () / 市民意識 () / 社会参加 (○)</p>		
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界と肯定的に出会う。 ・「あってはいけないちがひ」が貧困問題と関係していることに気づき、貧困が引き起こす影響について理解する ・よりよい世界にするために、自分にできることを考える。 		
単元の 評価規準	知識および技能	・日本と世界の国々とのくらしや文化の違いに気づくことができる。	
	思考力、判断力、 表現力等	・世界にある解決すべき課題に気づき、どうすればよいか自分の考えをまとめたり他者に伝えたりすることができる。	
	学びに向かう力、 人間性等	・日本と世界とのつながりに気づき、自分にできることを考え、行動しようとする ことができる。	
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	<ul style="list-style-type: none"> ・1学期に SDGsについてクイズ形式で学習をした際に、子どもたちは新しいことを知ることに対し、大きな興味・関心をもって取り組むことができた。そこから、もっと世界の国々について知りたいという子どもたちの思いを知り、実践を行った。 ・国際理解学習を進めるにあたり、大切にしたいことは、「世界と肯定的に出会う」ということである。まずは、楽しみながら世界の国々について学びことからスタートし、その後は、世界の解決すべき問題に目を向ける。最後に、課題解決のために自分ができることを考え、実践するという流れになるような授業計画を立てた。 ・本実践では、写真や音楽を使用したりオンラインで海外とつながったりする中で、子どもたちが五感を働かせ、考えを伝え合ったり受け止めたりする活動を行った。 		

[単元計画 (全9時間)]

時	ねらい	学習活動	資料など
1	世界の音楽や言語に肯定的に出会うことで、他の国についても興味や関心をもって調べようとする。	<u>クイズ大会をしよう</u> ・フィリピン、ケニア、マダガスカル、ボリビアの音楽と言語を聞き、どの国のものかを当てる。 ・印象に残った歌や言葉を交流する。 ・ペアで国をひとつ決め、三択クイズを作って出し合う。	フィリピン、ケニア、マダガスカル、ボリビアの音楽
2	お互いの国のよさに気づき、外国とコミュニケーションすることの楽しさを味わう。	<u>大切なものを伝えおう</u> ・マダガスカルの小学校とオンラインでつなぎ、絵を見せながら自分の大切なものを理由とともに伝え合う。 ・お互いに質問し合い、お互いの国の生活や学校の様子について知る。 ・交流中に、日本との共通点や相違点を探しておく。	
3 本時	フィリピンの課題やストリートチルドレンについて知る。課題を解決しようと活動している団体があることを知る。	<u>フィリピン子どもたちに出会おう</u> ・整列されていない5枚の写真を見て、ハッピーエンドになるように写真を並び替えて、ストーリーをつける。 【フォトランゲージ】 ・ストリートチルドレンの現状を知る。 ・アイキャンの活動について知る。	フィリピンの写真(5枚×2パターン)
4・5	世界の国々には、自分たちの生活と似ている国もあれば、違いがたくさんある国もある。その違いについて、「あってもいいちがいが」と「あってはいけないちがいが」があることに気づく。	<u>似ているところ・違うところ</u> ・今までのマダガスカルやフィリピンとの出会いから、日本と世界の国の子どもたちとの共通点や相違点を見つける。【対比表】 ・見つけた相違点の中から、「あってもいいちがいが」と「あってはいけないちがいが」を考えて理由とともに交流する。	ちがいのちがいが
6	人権という言葉の意味を知り、すべての人の人権は守られなければならないものであることに気づく。	<u>人権って何？</u> ・自分の好きなこと、大切なもの、自分らしく生きるのに必要なものを10個まで付箋に書き出す。 ・グループごとに模造紙に貼り、分類、整理してタイトルをつける。【カード式整理法】 ・付箋に書き出したことができていない状態は、人権が守られているということ、できていない状態は人権が守られていないことだと理解する。 ・もう一度、貧困に関する写真を見る。	
7・8	貧困問題が解決されないと、さまざまなことに影響があることに気づく。	<u>貧困が引き起こすことって？</u> ・このまま貧困問題が解決されないと、どんな影響があるのか考える。【派生図】 ・出てきた意見のうち、SDGsに関連しているものにシールを貼る。 ・各グループの模造紙にチェックや付け足しをしながら見て回り、交流する。 ・出てきた意見の中で、最悪の結末は何か考える。 ・貧困の輪をつくり、一度貧困状態に陥ると、支援がないとなかなか抜け出せないことに気づく。	貧困の輪 SDGsシール
9	よりよい世界にするために、自分にできる身近なことを見つける。	<u>貧困の輪を断ち切るために</u> ・貧困の輪を断ち切るために必要なことや、できることを書き込む。【プレーンストーミング】 ・訪問団体等の活動について知る。 ・よりよい世界をつくるための行動宣言をする。	「世界の課題を解決する9つの方法」

[本時の展開 (3時間目)]

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンの課題やストリートチルドレンについて知る。 ・課題を解決しようと活動している団体があることを知る。 		
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
導入 5分	1. 前時までの復習をする。 ・マダガスカルとのオンライン交流について振り返る。		
5分	2. 本時のめあて、流れを確認する。 ・フィリピンについて、知っていることを共有する。 ・フィリピンの位置を世界地図で確認し、日本と同じアジアの国であることを知る。		
5分	3. タブレットに配られた写真を見て、気になるところをチェックする。 ・写真から、「これは何?」「何をしているのかな?」と気になるものに印を付ける。 ・丸印をつけたところを、グループで交流する。	・2パターンの写真を用意しておき、同じグループの人と写真が同じになるように配る。	ロイロノート フィリピンの写真 (5枚×2パターン: 首都の街並み、スラム街、ストリートチルドレン、子どもの家、職業訓練など)
展開 10分	4. 写真を並び替えてストーリーを作る。【フォトランゲージ】 ・2パターンとも、ハッピーエンドになるように写真を並び替える。 ・並び替えた写真にストーリーをつける(ワークシートに記入する)。	・周知の昔話を使い、並び替え操作の具体例を示す。 ・正解することが目的ではなく、写真から想像し、考えることが大切であることを伝える。	
15分	5. つくったストーリーを交流する。 ・並び替えた写真をタブレット上で提出する。 ・写真を見せながら作ったストーリーをグループで伝え合う。 ・全体でも何人か発表する。	・友だちの発表を聞くときには、反応したり質問したりすることが大切であることを確認する。	
まとめ 5分	6. フィリピンの実態を知る。 ・フィリピンの課題について知り、課題を解決するために行動している人がいることに気づく。 ・SDGsとの関連にも気づく。	・正しい順序に並んでいる写真を解説しながら見せる。 ・「かわいそう」だけで終わらないように、課題を解決するために行動している人がいるという部分も強調して伝える。	
5分	7. 授業の振り返りをする。 ・ワークシートに感想を書く。 ・次時では、フィリピンと日本の似ているところと違うところをマダガスカルとの交流で分かったことと合わせて、まとめていくことを理解する。		
評価規準に基づく 本時の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・アクティビティを通して、フィリピンをきっかけにストリートチルドレンの現状や格差社会の現実に気づくことができた。また、それらの課題に対して支援を行っている団体があることに興味をもつことができた。 ・活動自体は少し難しかったが、「自分なりのストーリーを作ることができた」ことに、達成感や充実感をもつことができた子どもが多かったので、作ったストーリーを友だちにも聞いてほしいという意欲につながった。 		

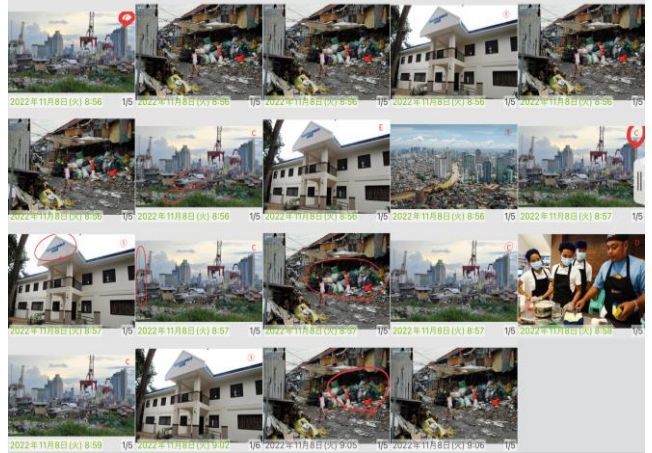
〔総括・まとめ〕

学習方法および外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・知人から、協力隊としてマダガスカルの小中学校で活動している隊員を紹介してもらい、オンラインでの交流を実現することができた。 ・多くの言葉で説明するよりも、写真などを使い子どもたちに感じさせ、それを言葉にするという学習の積み重ねを行った。
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修では、総合的な学習の教科グループに所属し、授業公開を何度か行った。 ・SDGsに取り組む企業と連携して、校内研修を企画・実践した。 ・国際理解教育をテーマとする市内の教研グループでも授業公開を行い、学校外の教員も参観した。また、そのグループ内で実践や教材の紹介を行った。
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・今回、2クラスでの実践となったが、総合的な学習の時間を各担任が担当しているため、自分が担任していないクラスでも同じ内容で実践してもらうこと。 ・「世界の課題について知る」ところで、どこまで伝えたらよいか。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・「ちがいのちがいがい」では、「あってはいけないちがいがい」という言葉が感覚的にわかりづらい子どもいたため、もっとわかりやすい言葉を使ったり具体例を示したりするとよかった。 ・「行動宣言」をしたので、その後実践できているかなど、振り返りを充実させるとよかった。
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型のアクティビティは、子どもたちにとって楽しく、やりがいのあるものであった。何度かやっていくうちに、授業後、「先生、わたしこの勉強大好きだからもっとやりたい」と言いに来る子どももいた。 ・自分の感じたことや考えたことをアウトプットする力がついた。また、成果物の交流の際に友だちの考えに「いいね！」の印を付けさせることで、自分の考えに自信がつくようになったり友だちの話を受け止めようとする姿勢もよくなったりした。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>行動宣言より</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本では当たり前だが、フィリピンやマダガスカルでは当たり前でないと知った。もっと、今、世界中で困っていることを調べて知り、他の人たちにも伝えたい。なぜなら、たくさんの人が課題を知れば、自分の行動をよく見直すと思うから。 ・この勉強をするまでは、「世界で困っている人がいて、大変だな」くらいだったけど、よく考えていったら、「もっと協力しないと！」とか「どうすれば助けられるかなあ」とかを考えられるようになった。もっと SDGs や人権、世界で起きていることについて知って、それを家族とか少しでもいいから知ってもらおうようにしたい。なぜなら、少しでも多くの人に広められたら、他の人にもつながって行って、みんなが協力する世界になるかもしれないし、貧困などで苦しんでいる人が少しでも減るかもしれないから。しかも、それによって戦争とかがなくなったり、世界がもっと仲良くなれたりするかもしれない。
授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の途上国での生活経験から見たこと、感じたこと、伝えたい思いなどから今まで開発教育の実践を行ってきたつもりでいた。しかし、子どもたちが意欲的に学べるような教材化ができておらず、教師から子ども一方通行の学習にとどまっていたように思う。しかし、今年度研修に参加し、参加型のアクティビティの手法をたくさん学んだことで、子どもたちと一緒に世界のことを考えることができた。今年度担任したクラスでは、よりよい世界にするために行動する子どもが増えた。「給食は自分の食べられる量を最後まで必ず食べる、もっと食べられる人で残食をゼロに」「学校の周りや公園のゴミ拾い活動をする」これらは子どもたちから生まれたアイデアで、クラス全員で実践をしている。子どもたちが実践していることが他のクラス、また家庭へと広がっていくことを期待している。
単元構想・実施における参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・愛知県国際交流協会 国際理解教育教材「わたしたちの地球と未来」教材活用マニュアル http://www2.aia.pref.aichi.jp/topj/index.html ・特定非営利活動法人アイキャン https://ican.or.jp/

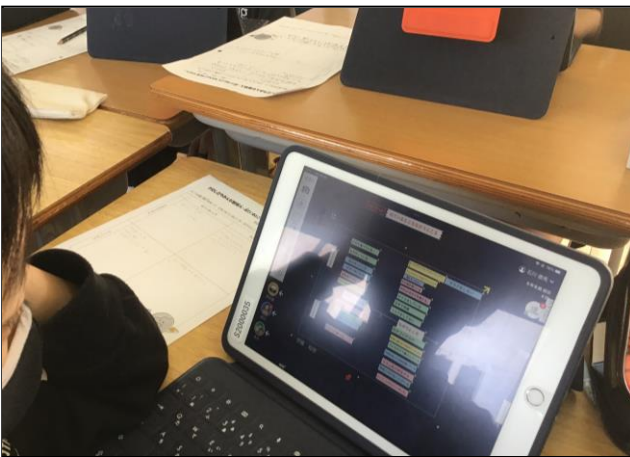
[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]



▲ マダガスカル小学校と交流「大切なものを伝え合おう」



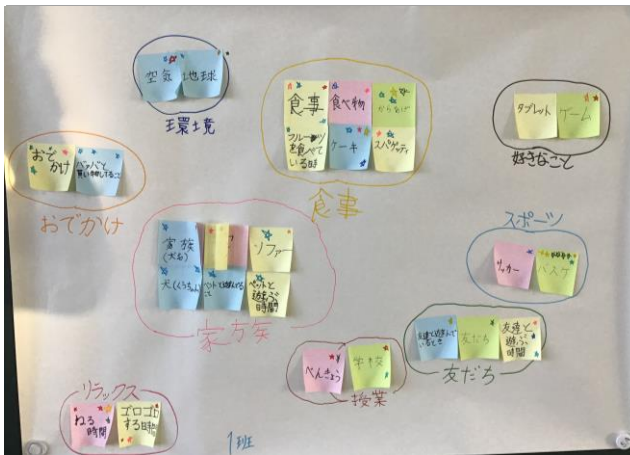
▲ フォトランゲージで並び替えた写真を提出したもの



▲ 類似点、相違点を探してタブレットに打ち込む



▲ 「ちがいのちがいが」授業後の板書



▲ 「人権って何?」初めての付箋、模造紙に遠慮がちの成果物



▲ 「このまま貧困が続くと?」のテーマでプレストSDGsシールや「いいね!」マークにテンションが上がる

もしかしたら、この生ごみは、〇〇かもしれない？！

学校名	愛知県名古屋市長平田小学校		授業者氏名	菊地 純奈
対象学年 (人数)	小学校3年生(29名)		実践年月 (時数)	2022年11月～2023年1月 (4時間)
担当教科等	全科			
単元名 (活動名)	もしかしたら、この生ごみは、〇〇かもしれない？！			
実践する 教科・領域	総合的な学習の時間			
学習領域	<p>A 多文化社会 … 文化理解 () / 文化交流 () / 多文化共生 ()</p> <p>B グローバル社会 … 相互依存 () / 情報化 ()</p> <p>C 地球的課題 … 人権 () / 環境 (○) / 平和 () / 開発 ()</p> <p>D 未来への選択 … 歴史認識 () / 市民意識 () / 社会参加 ()</p>			
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生ごみの行方を知り、生ごみが増えると起こる問題に気付く。 ・生ごみ問題に取り組む、ポリビアの実践を知る。 ・自分たちが生ごみを増やさないためにできることを考え、行動する。 			
単元の 評価規準	知識および技能	・生ごみの行方を知り、生ごみが増えると起こる問題に気付くことができる。		
	思考力、判断力、 表現力等	・生ごみを増やさないために、自分ができることや学級全体で取り組めることを考え、伝えることができる。		
	学びに向かう力、 人間性等	・自分たちが生ごみを増やさないためにできることを考え、行動しようとするすることができる。		
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちが給食で残した食べ物が、どのように処理されているのか考えたこともない児童が大半だと思われる。そこで今回は、児童にとって身近な給食の食べ残しから導入を行う。そうすることで、生ごみ問題について、自分ごととして捉えることができると考える。 ・4年生の社会科で、ごみ処理について学習するため、その学習につなげられるように、今回は生ごみに限定して考えさせる。単元を通して、生ごみは、家庭ごみの半分近くを占めていることや、他の可燃ごみと比べて水分を多く含むため、燃やすときにより多くのエネルギーを使うことなどを知り、行動宣言につなげることができるようにしたい。 ・「食べ残しをしないようにする」ことも大切であるが、調理の際に出る野菜くずや卵の殻など、どうしても出てしまう生ごみもある。そこで、ポリビアで行われているコンポストの取り組み(NPO 法人「DIFAR」の取り組み)から、生ごみを可燃ごみに出さないで処理する方法を知り、単元名の「もしかしたら、この生ごみは、〇〇かもしれない?!」につなげられるようにする。 			

[単元計画 (全4時間)]

時	ねらい	学習活動	資料など
1	生ごみの行方を知る	<ul style="list-style-type: none"> 好きな給食ランキング【ランキング・クイズ】 「私は誰でしょう」 自分の好きな給食を1~3位まで選び、用紙に記入する。その後、全員の用紙を回収し、名前を伏せて、ランキングのみを紹介し、誰か当てるクイズ。 給食で出された生ごみはどこへ行く？【マッチング】 給食で残った、ご飯・おかず・牛乳・デザートなどがどのように処理されているか、グループで話し合い、発表する。その後、全体で答え合わせをする。 	<ul style="list-style-type: none"> 生ごみリサイクル事業について(名古屋市西区)
2 本時	生ごみが増えると起こる問題に気付く	<ul style="list-style-type: none"> 生ごみが増えると、どんな問題が起こる？【O×クイズ】 生ごみに関するO×クイズに個人で取り組む。答え合わせをする前に、なぜその答えを選んだのか理由を発表する。生ごみが、食品ロスやエネルギー問題など、様々な問題に関わっていることを知る。 生ごみが増えて困っている、喜んでいるのはだれ？【ロールプレイ】 生ごみが増えて、影響を受けている様々な人・動物の立場になって考える。→コンビニエンスストアの店員・ごみ処理場で働く人・カラス・コンポストを始めた人 振り返り 本時の授業を振り返り、「分かったこと・気付いたこと・もっと知りたいこと」を記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本のゴミの埋め立て場がなくなる！？ パタゴニア コンビニエンスストアの食品ロス問題から考える カラス被害とごみ対策
3	ボリビアでの生ごみ堆肥化の実践を知る	<ul style="list-style-type: none"> ボリビアでのコンポストの取り組みについて知ろう！【ストーリーづくり】 ボリビアのコンポストの取り組みに関する写真4枚から、想像したことをグループで話し合い、ストーリーにして発表する。その後、実際のストーリーを動画で知る。 	<ul style="list-style-type: none"> DIFAR のコンポストの取り組み(教師国内研修で録画した動画)
4	自分たちが生ごみを増やさないためにできることを考え、行動する	<ul style="list-style-type: none"> 生ごみを減らすために役立つこと、必要なこと、できることは何か考えよう！【ブレインストーミング】 生ごみを減らすためにできることをグループで考え、思いつく限り紙に書く。その後、全体で共有する。 自分にできることを3つ選び、実践しよう！【ランキング】 ブレストで出たアイデアから、自分ができることを3つ選び、行動宣言をする。 振り返り この単元を通して感じた「もしかしたら、この生ごみは、OOかもしれない?!」のOOに当てはまる言葉を考えて、発表する。 	

[本時の展開（2時間目）]

<p>ねらい</p>	<p>・生ごみの行方を知り、生ごみが増えると起こる問題に気付く。</p>		
<p>過程・時</p>	<p>教師の働きかけ・発問および学習活動</p> <p>1 前時の振り返りをしよう 給食の生ごみがどのように処理されていたのか、確認する。 また、1時間目に行った「私は誰でしょう」クイズを行う。</p> <p>2 生ごみが増えると、どんな問題が起こる？ 生ごみに関する○×クイズに個人で取り組む。</p> <p>① 日本全国で1年間にみだされている生ごみは、約3000万トンだ。(東京スカイツリー約80個分)○</p> <p>② それぞれの家庭から出しているもえるごみのうち、約20%が生ごみである。×→約40%</p> <p>③ 家庭から出ている生ごみのうち、約20%が食べ残しである。×→約40%</p> <p>④ 生ゴミをもやすときには、ふつうのもえるゴミ(ほこりやティッシュなど)をもやすときよりも、たくさんのエネルギーをつかう。○</p> <p>⑤ 日本の1年間の食品ロスの量は、世界全体での食料援助量よりも多い。○</p> <p>答え合わせをする前に、なぜその答えを選んだのか理由を発表する。生ごみが、食品ロスやエネルギー問題など、様々な問題に関わっていることを知る。</p> <p>3 生ごみが増えて困っている、喜んでいるのはだれ？ 生ごみが増えて、影響を受けている様々な人・動物の立場になって考える。(コンビニエンスストアの店員、ごみ処理場で働く人、カラス、コンポストを始めた人) 4~5人のグループになり、自分の役割シートに書かれていることを読んで伝えるようにする。</p> <p>4 振り返りをしよう 本時の授業の中で、自分が分かったこと・気付いたこと・もっと知りたいことを記入する。</p>	<p>指導上の留意点(支援)</p> <p>・タブレットを用いてクイズを行うことにより、どの回答をしている人が多いか少ないか知ることができるようにする。</p> <p>・正解か不正解かを確認するだけにならないよう、答え合わせをする前に、どうしてその答えを選んだのか、理由を発表させ全体で共有させるようにする。</p> <p>・答え合わせをする中で、生ごみの問題は、処理場、埋め立て場の問題だけではなく、様々な問題に関わっていることを、実感できるようにする。</p> <p>・生ごみによって引き起こされている問題を、様々な視点から知ることにより、生ごみ問題をより自分の身近なこととして捉えることができるようにする。</p>	<p>資料</p> <p>・生ごみを制すれば、「ごみ」を制す1・2 ゼロ・ウェイストに取り組むステップ#1 環境・CSR・サステナビリティ戦略に役立つ情報サイト</p> <p>・日本のゴミの埋め立て場がなくなる!? パタゴニア ・コンビニエンスストアの食品ロス問題から考える ・カラス被害とごみ対策</p>
<p>評価規準に基づく本時の評価</p>	<p>・生ごみの行方を知り、生ごみが増えると起こる問題に気付くことができる。</p> <p>振り返りでは、「1年間で、とてもたくさんの生ごみが捨てられていることが分かった」「生ごみは、処理するのに時間がかかるし、エネルギーもたくさん使うことが分かった」「どうしたら生ごみを減らせるか知りたい」等の記述が見られた。児童が、生ごみによって引き起こされる問題に気づき、問題解決をしたいという気持ちをもつことができたと考えられる。</p>		

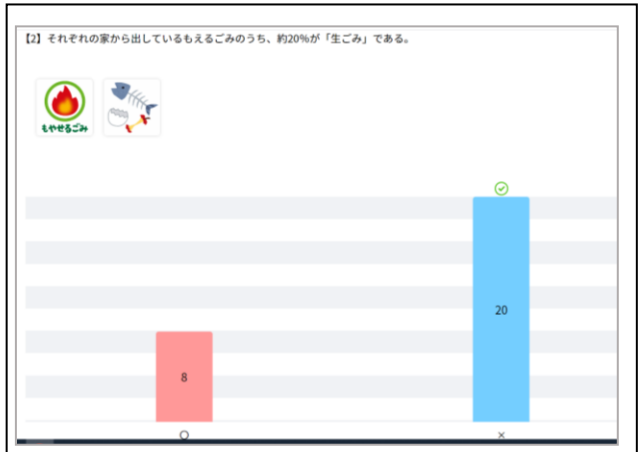
〔総括・まとめ〕

学習方法および外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型の手法を毎回の授業で取り入れたこと。特に、ロールプレイと、〇×クイズは、児童の学びの意欲を高めることができたように感じた。 ・教師国内研修時の、NPO法人DIFARとの動画を用いたこと。動画の中で、私が質問する場面が出たため、児童にとって、動画がより身近なものとして感じられたのではないかと思う。 									
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の実践を広める取り組みは、行うことができなかった。 ・実践とは関係ないが、4～6年生向けに「国際クラブ」を立ち上げて、その中で参加型の手法を用いたり、教師国内研修で繋がりを得た、日本福祉大学の学生達の動画を見せたりした。 									
苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ロールプレイの台本づくり、〇×クイズづくり 単元の最後に行う児童の行動宣言が、「食べ残しをしないようにする」だけにとどまらないよう、エネルギー問題、食品ロス問題、コンポストについてなど、様々な情報を盛り込む資料づくりを心掛けた。そのため、資料作成に時間がかかり、授業の開始時期が遅くなってしまった。 									
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・単元を開始する時期が遅かったため、行動宣言後の、児童の取り組み期間が短くなってしまった。もう少し早めに行うことができたなら良かった。 ・3時間目のストーリーづくりで、多くのグループが正解に近いストーリーを発表した。そのため、答え合わせのときに、児童にとって驚きや新鮮味が少なかったように感じる。どの写真にするか、こちら側がもう少し精選すべきだった。 									
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型の手法を多く取り入れたことにより、授業に意欲的に取り組む児童の姿が見られた。 ・個人の行動宣言について、毎月振り返りを行ったことにより、問題について継続的に行動する意識をもたせることができた。 ・個人での行動宣言の他に、月ごとに学級で取り組む目標を立てた。給食に関するものがほとんどであったが、生ごみを減らそうという意識を学級全体でも高めることができた。 									
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>単元の最後に、今回の授業テーマである「もしかしたら、この生ごみは、〇〇かもしれない?!」の、〇〇に当てはまる言葉を、児童が考えて記述した。</p> <p>もしかしたら、この生ごみは・・・</p> <table border="1" data-bbox="379 1355 1444 1489"> <tr> <td>・まだ食べられる</td> <td>・肥料になる</td> <td>・肥料にして花にまけばGood</td> </tr> <tr> <td>・世界を変える</td> <td>・エネルギーに使える</td> <td>・捨てられる量が多い</td> </tr> <tr> <td>・人間の味方</td> <td>・色々なことに利用できる</td> <td>・再利用できる</td> </tr> </table> <p style="text-align: right;">かもしれない?!</p>	・まだ食べられる	・肥料になる	・肥料にして花にまけばGood	・世界を変える	・エネルギーに使える	・捨てられる量が多い	・人間の味方	・色々なことに利用できる	・再利用できる
・まだ食べられる	・肥料になる	・肥料にして花にまけばGood								
・世界を変える	・エネルギーに使える	・捨てられる量が多い								
・人間の味方	・色々なことに利用できる	・再利用できる								
授業者による自由記述	<p>個人の行動宣言で、「問題を周りの人に伝える」と記述した児童が、冬休みの自由研究で生ごみ問題についてポスターにまとめてきた。前年度の実践では、授業後、継続的に行動する児童が少なかった。そのため、今年度はその反省を生かし、個人の行動宣言について振り返る時間を取ったり、学級全体で目標を決めて、継続的に取り組んだりした。そのため、児童の問題解決に対する意識を継続させることができたと考える。児童の問題意識を持続させるためには、授業後も様々な工夫をしていく必要があると感じた。</p>									
単元構想・実施における参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA中部 教師海外研修ガイドブック 2021年3月 ・DEAR 気候変動 開発教育アクティビティ集3 2020年3月 ・生ごみリサイクル事業について 名古屋市教育委員会 学校保健課 2022年3月 									

[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]

もえるごみ	リサイクル	そのほか
		
		
		

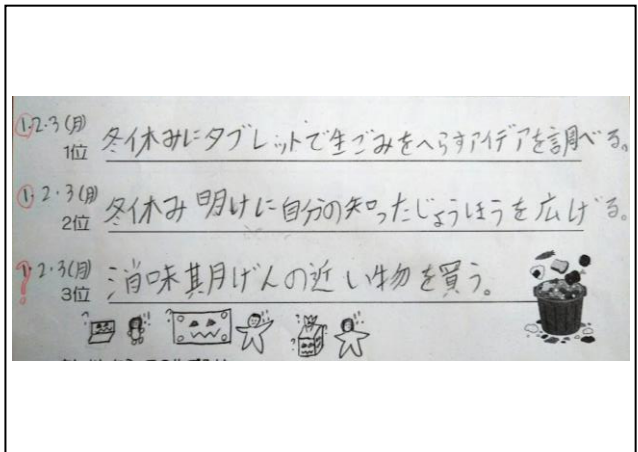
▲ 給食の行方マッチング 児童の予想



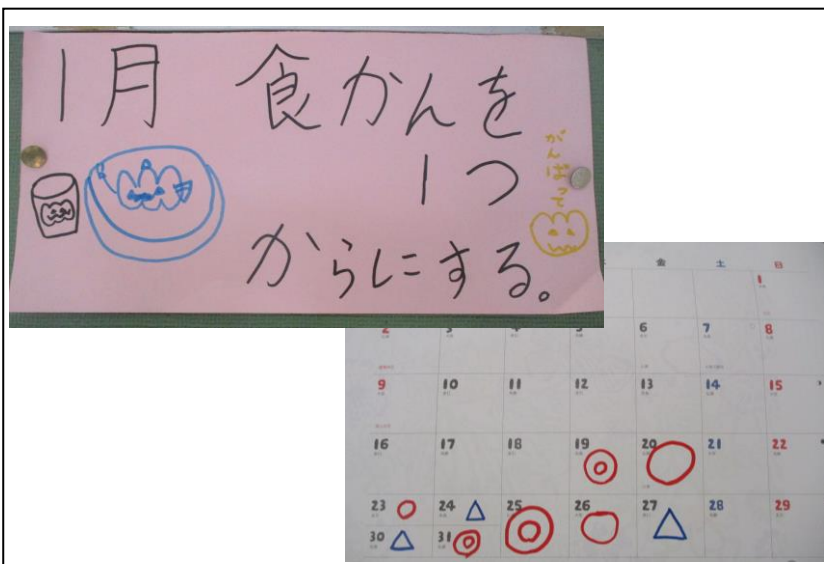
▲ 生ごみ〇×クイズ 児童の回答



▲ NPO法人DIFARの写真 ストーリーづくり



▲ 4時間目 児童の行動宣言



▲ 生ごみを減らすためのクラス目標と毎日の振り返り

国旗 & 食べ物 de 国際理解

学校名	静岡県富士市立広見小学校		授業者氏名	高口 涼
対象学年 (人数)	小学校2年生(29名)		実践年月 (時数)	2022年 1月～2月 (4時間)
担当教科等	全科			
単元名 (活動名)	世界の国々			
実践する 教科・領域	国語科・道徳科・学級活動			
学習領域	A 多文化社会 … 文化理解 (○) / 文化交流 (○) / 多文化共生 () B グローバル社会 … 相互依存 () / 情報化 () C 地球的課題 … 人権 () / 環境 () / 平和 () / 開発 () D 未来への選択 … 歴史認識 () / 市民意識 () / 社会参加 ()			
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・海外には、いろいろな国があるということを知る。 ・食を通して、自分の普段食べているものとの違いや共通点に気付く。 ・授業を通して、授業外でも海外の国や地域について関心をもつ。 			
単元の 評価規準	知識および技能	・海外には、いろいろな国があるということを知ることができた。		
	思考力、判断力、 表現力等	・食の比較を通して、自分の普段食べているものとの違いや共通点に気付くことができた。		
	学びに向かう力、 人間性等	・授業を通して、授業外でも海外の国や地域について関心をもつことができた。		
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	<ul style="list-style-type: none"> ・発達段階を考慮しつつも、身近な食から世界に関心をもつきっかけになる授業を行うことは意義のあることだと考える。 ・既存の題材にも少しだけはあるが国際理解に関する取扱いをしたものがあり、より広く学習できることを願って本単元を計画した。 ・子供たちは、知っていることを発信したいという意欲が高く、知っていることから新たな知識を拡充していく方法をとった。 			

[単元計画 (全4時間)]

時	ねらい	学習活動	資料など
1	・食を通して、自分の普段食べているものとの違いや共通点に気付く。	道徳科 学研みらい『みんなのどうとく 2年』より「行ってみたいな」 ・どこの国の名前が出てきたかな。 ・世界のどこにある国かな。 ・どんな食べ物や料理があるのかな。 ・世界の国々の給食の様子を見てみよう。【フォトランゲージ】 ・自分たちの給食の様子との違いはあったかな。同じところはあったかな。	HP「笑顔でランチ (理研ビタミン)」
2 本時	・海外には、いろいろな国があるということを知る。	学級活動 より、世界について知ろうクイズ！【クイズ】 ・世界で一番広い国は？ ・世界で一番そこに住む人、人口が多い国は？ など 『こっきのえほん』戸田デザイン をグループで見よう。 ・関心をもった国を一つ選ぼう。 ・その選んだ国ではどんな食べ物や料理が有名なのかな。	HP「キッズ 外務省」を大画面に映しながら出題、解答提示を行った。
3	・海外には、いろいろな国があるということを知る。	学級活動(続き) ・選んだ国を友達に紹介しよう。【共有】	
4	・授業を通して、授業外でも海外の国や地域について関心をもつ。	国語科 「続けてみよう日記」 お題 新しく知った国について	

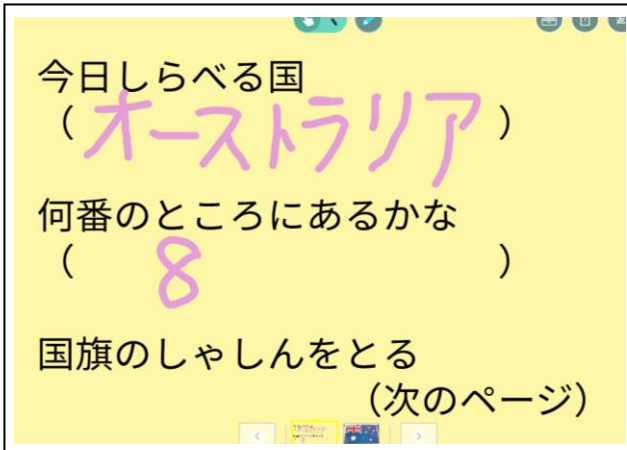
[本時の展開 (2時間目)]

ねらい	・海外には、いろいろな国があるということを知る。(知識・技能)		
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
導入 (10分)	<p>学級活動 より、世界について知ろうクイズ!【クイズ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世界で一番広い国は? ・世界で一番そこに住む人、人口が多い国は? など <p>課題提示 「世界にはどんな国があるのだろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・どんな場所にあるのかな。 ・旗はどんなものがあるのかな。 ・どんな食べものがあるのかな。 	<p>発達段階に応じて3択にしてみるのもいい。 今回実践した2年生へのクイズでは、広い国はそのまま聞いてみたが、住む人が多い国や人口の多い国は3択にした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・課題解決へのアプローチについてあらかじめ確認しておく雑多にならない。 	キッズ外務省 HP などを使いながら問題を作問しておく。
展開 (25分)	<p>『こっきのえほん』戸田デザイン をグループで見よう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関心をもった国を一つ選ぼう。 ・その選んだ国ではどんな食べ物や料理が有名なのかな。 <ul style="list-style-type: none"> ・日本の料理と比べてどんな雰囲気かな。違いはあるかな。 ・日本の場所と調べた国も場所は近くな、離れているかな。 ・友達はどうな国を調べているのかな。 ・友達の調べた国を見てみよう。 	<p>完全版でもいいが、ある程度絞られているものでも低学年では十分。興味のある子どもは、後ろのほうの小さい国旗から国を選んでいたりした。</p> <p>有名な料理調べは今回はタブレット端末を使った活動にした。サイトについてはあらかじめ調べていいサイトを右記に限定して調べるように指示した。右記にないものは個別に相談に来るよう話して、担任と一緒に検索した。</p>	世界の食と文化(明治)や、笑顔でランチ(理研ビタミン)など
終末 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ・新しく知った国はあるかな。 ・動物の旗の国や、ALT の先生の生まれた国が遠くだったということもわかったね。 	<p>新しく知ったことを言語化する。ここで日本との違いについて少しだけ気象条件や日本との距離について触れておくと授業後の関心につながると思う。</p>	
評価規準に基づく 本時の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・海外には、いろいろな国があるということを知ることができた。 ・食の比較を通して、自分の普段食べているものとの違いや共通点に気付くことができた。 ・授業を通して、授業外でも海外の国や地域について関心をもつことができた。(※この実践は、今回は道徳の授業との流れで作成したのもではあるが、1時間の単発でもできるようになっている。) 		

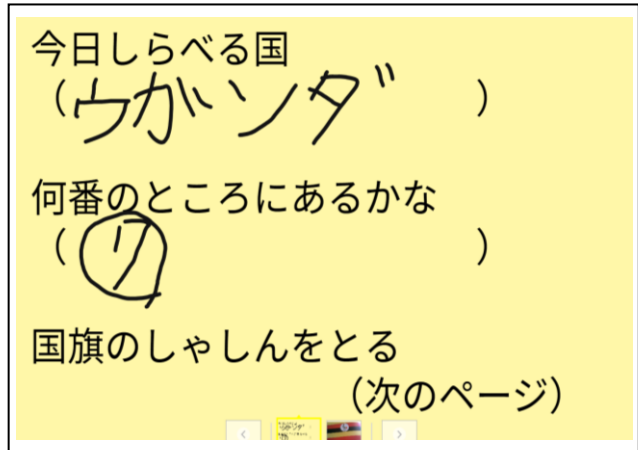
〔総括・まとめ〕

学習方法および外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・タブレット端末を用いた操作学習や各教科領域にある学習事項との関連を意識した学習。 ・クイズや身近な食を通じた知識の獲得を図った参加型の学習。
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会、サークル等国際理解教育に関心はあるけれど、どのように一時間を構成したらよいのか悩んでいる人たちに紹介。
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・大事なことだと思われているが、題材以上に踏み込むことの必要性を伝えることが難しかった。 ・「難しいんじゃないか」を突破する課題設定の手立て。今回は「いろいろな国があることを知る」ということにしたが、本当にそれでいいのか。と悩んだ(筆者が)。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・誰でも準備ができるもの。あるものを使っていくことでアレンジが可能なものによりしていきたい。 ・「知ることが全ての始まりだ」くらいに考えてもいいのかももう少し時間が欲しい。
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・評価に照らせば、達成できた。 ・紹介している際に「自分だったら、こうする。」という考えをたくさん聞くことができた。これは、報告や紹介をもし実践するとしたらという視点から考えていただけたのだと思う。筆者の実践を踏み台にして多くの人が様々なアレンジをしてほしい。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国の食べ物が日本のものに似ていた。 ・いろいろな国があることが分かった。 ・オーストラリアについて知れてよかった。 ・(後日)、テレビでたまたま出てきた国が授業でやったそうで親子で話題になりました。(児童の読書カードから保護者コメント)等
授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・私自身、研修で初めて知ったことが多くありました。小学2年生に直接伝えるにはあまりにも発達段階を無視しすぎているので水準を下げずにでも世界で起きている様々なことを知っていくきっかけになるにはどうしたらよいのか考えた一年でした。ここで紹介したことはほんの一端です。 ・知人からいただいたエジプトの写真を見たり、ロシア(ウクライナ戦争前)の写真や動画を一緒に見たりしてきました。また、私自身の手持ちの写真や動画を題材にしたり、宿題である新聞の記事を読んでもみたりということをやったのも書いていて思い出しました。 ・実物を見たり、人と会ったりすることが一番いいのですが、これからはそうしたことも意識的にやっていけたらいいなと思っています。
単元構想・実施における参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・指導案や報告中に記載したもの以外は用いていません。

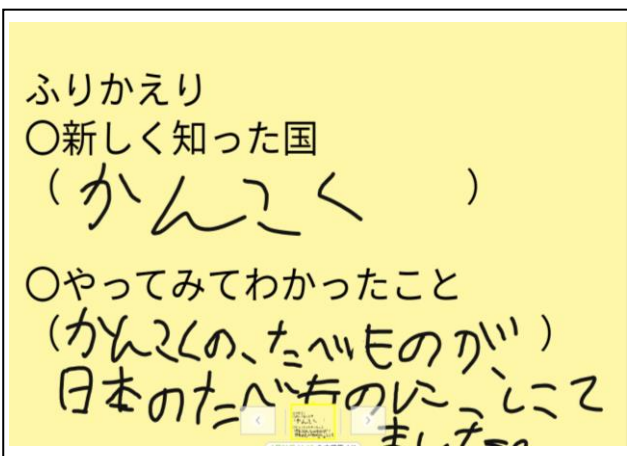
[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]



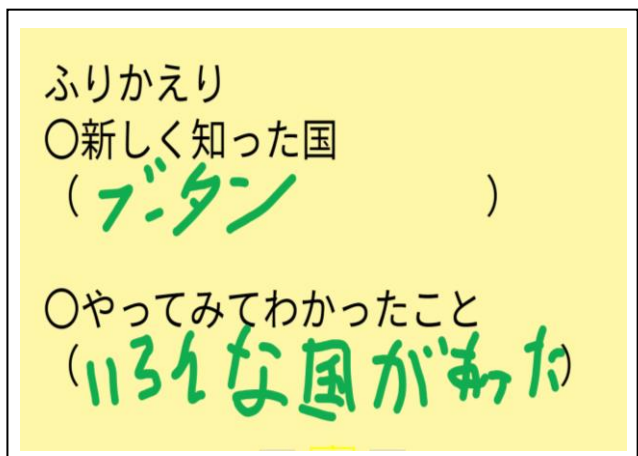
▲ 調べワークシート



▲ 調べワークシート



▲ ふりかえりワークシート



▲ ふりかえりワークシート

世界の仲間と笑顔に😊 ～みんな幸せ、だから幸せ～

学校名	愛知県弥富市立弥富北中学校		授業者氏名	児玉 やこ
対象学年 (人数)	中学校1年生(130名)		実践年月 (時数)	2022年 12月 (2時間)
担当教科等	国語			
単元名 (活動名)	SDGs × 人権			
実践する 教科・領域	総合的な学習の時間			
学習領域	<p>A 多文化社会 … 文化理解 (○) / 文化交流 () / 多文化共生 ()</p> <p>B グローバル社会 … 相互依存 () / 情報化 ()</p> <p>C 地球的課題 … 人権 (○) / 環境 () / 平和 () / 開発 ()</p> <p>D 未来への選択 … 歴史認識 () / 市民意識 () / 社会参加 ()</p>			
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・文化の違いを味わうおもしろさや、世界の人々と自分の共通点に気づく。 ・人権に関する課題(ストリートチルドレン)について知り、放置されるとどうなるか考える。 ・世界中のみんなが幸せになるために、自分にできることを考え行動する。 			
単元の 評価規準	知識および技能	・世界の人権に関する課題やその解決方法について知ることができる。		
	思考力、判断力、 表現力等	・世界の人権に関する課題が放置されたらどうなるか、また、課題解決のために自分にできることは何かを考え、具体的な行動宣言をすることができる。		
	学びに向かう力、 人間性等	・世界の文化を味わい、共通点に気付く中で、世界の課題を自分事として捉えて学びを深めることができる。		
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	<ul style="list-style-type: none"> ・昨今、SDGsという言葉が様々な場面で聞かれるようになり、本校でも総合的な学習の時間に、SDGsを軸にして学びを進めている。しかし、SDGsについて学んでいても、どこか他人事で遠くの国の出来事のように感じている生徒が多いように思った。SDGsについての知識をもっている生徒たちが、より世界を身近に感じ、世界の課題に自分事として向き合えるよう、「肯定的に出会う」「つながりに気づく」「共通の課題をともに越える」という流れを大切にして授業を組み立てた。 ・本校では、どの教科においても対話を中心に授業を進めているため、生徒は参加型の学びに慣れている。本単元においても、随所に参加型の学習を取り入れ、仲間と協働したり、学び合ったりすることで、主体的・対話的で深い学びを目指した。 ・今年度の教師国内研修に参加し、世界のおもしろさや魅力的な人々と出会った。この感動を、以前の教師海外研修での感動と合わせて生徒たちに伝えたいと考え、研修中に撮影した写真や動画、インタビュー内容を教材資料として活用した。「貧困」をテーマとして扱うにあたり、生徒たちが授業後に「かわいそう」という感想で終わってはいけないと思い、肯定的に出会える資料やつながりに気づくことができる資料を準備した。 ・本単元を通して、世界に暮らす人々を身近に感じ、SDGsを自分事として考え、達成のために行動できる人を育てたいと考えた。 			

[単元計画（全2時間）]

時	ねらい	学習活動	資料など
1 本時	文化の違いを味わうおもしろさや、世界の人々と自分の共通点に気づき、世界の人権に関する課題を自分事として捉えることができる。	<p>1 自分の学校の文化について考え、環境によって生活文化が違うことを実感する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 他の学校にはない、弥北の特徴をグループで話し合う。 <p>2 世界の国々の文化にふれ、違いのおもしろさに気づいたり、興味をもったりする。日本の文化で世界の人々が驚いた文化について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 世界の文化クイズに取り組む。 ・ 日本の文化クイズに取り組む。 <p>3 フィリピンの子どもたちと自分たち日本の子どもとの共通点に気づき、世界の人を身近に感じる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ フィリピンの子どもたちのインタビュー動画を見て、気づいたことをブレインストーミングする。 <p>4 世界の課題「ストリートチルドレン」の生活や原因、背景について知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 写真や資料を見ながら、ストリートチルドレンについての話を聞く。 ・ 学習活動3に出てきた子どもたちが、以前ストリートチルドレンであったことを知る。 	<p>教師海外研修(パラグアイ)の写真 教師国内研修(ベトナムからの留学生)のインタビュー内容 教師国内研修(フィリピンの子どもたちへのインタビュー)の動画 教師国内研修(ICAN)の動画資料</p>
2 本時	世界の人権に関する課題が放置されるとどうなるか考え、世界中のみんなが幸せになるために、自分にできることを考え行動することができる。	<p>5 世界の課題が解決されず放置され、続いていくとどうなるかを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ストリートチルドレンが路上生活から抜け出せないとどうなるかを考える。 <p>①グループで派生図をかく。</p> <p>②「子どもの権利条約・4つの原則」を知り、新たな視点で派生図を書き足す。</p> <p>③命に関わる最悪の結末だと思ふもの3つにドクロマークを貼る。</p> <p>④心に関わる最悪の結末だと思ふもの3つにハートブレイクマークを貼る。</p> <p>⑤派生図に書いたことがSDGsの何番に関わるか考え、番号を書き足す。</p> <p>⑥グループで書いた派生図をギャラリー方式で共有する。</p> <p>6 ストリートチルドレンが路上生活から抜け出すために活動しているアイキャンの取組について聞き、課題の解決方法の1つを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ アイキャンの具体的な取組や、解決するために行動している人の考えについて知る。 <p>7 世界の仲間と笑顔になるため、よりよい世界になるため、自分にできることを考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 今すぐできること、大人になったらできることを、グループでブレインストーミングする。 <p>8 よりよい世界にするために、自分の行動宣言を表明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ワークシートに中1の今、行動したいことを考えて書き込む。 ・ 大人になったときに、行動したいことを考えて書き込む 	<p>子どもの権利条約より「4つの原則」</p> <p>SDGsロゴ</p> <p>教師国内研修(ICAN)の資料</p>

[本時の展開（1時間目）]

ねらい	・文化の違いを味わうおもしろさや、世界の人々と自分の共通点に気づき、世界の人権に関する課題を自分事として捉えることができる。		
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
導入 10分	1 自分の学校の文化について考え、環境によって生活文化が違うことを実感する。 <u>アイスブレイク「弥北の特徴 ベスト3」</u> 「他の学校にはない、弥北の独特の文化だと思うこと、3つをグループで考えましょう」 ・ いろいろな特徴が出るようにグループを指名し、意見を共有する。	・ 弥北で当たり前だと思っていることが、他校では当たり前でないこともあり、文化の違いはいたるところにあることを確認する。	
深める 20分	2 世界の国々の文化にふれ、違いのおもしろさに気づいたり、興味をもったりする。日本の文化で世界の人が驚いた文化について知る。 <u>世界のおもしろ文化クイズ</u> <u>【フォトランゲージ・4つのコーナー】</u> 「今から様々な国のクイズを出します。1～4から答えを選び、そのエリアへ移動してください。」 ①パラグアイでバナナを買うと・・・ ②モンゴルで車で移動中、目の前に小さな川が・・・ ③ベトナムで初対面の人に聞きたいことは・・・ ④ベトナム人留学生が日本で驚いたこと・・・ ・ 感想を発表させ共有する。	・ クイズの内容は、教師が見たり、聞いたり、体験したりしたことを切り取っているため、この国のすべての人がそうしているわけではないことを押さえ、一部の情報で相手を決めつけてはいけないことを確認する。 ・ 答えを確認するときには、そのときの状況を補足して、生徒がイメージしやすいようにする。	教師海外研修(パラグアイ)の写真 教師国内研修(ベトナムからの留学生)のインタビュー内容
15分	3 フィリピンの子どもたちと自分たち日本の子どもとの共通点に気づき、世界の人を身近に感じる。 <u>フィリピンの子どもたちと自分の共通点</u> <u>【ブレインストーミング】</u> 「フィリピンの子どもたちのインタビュー動画やインタビュー内容をまとめたものを見て、気付いたことをワークシートにメモしましょう。共通点や似ているところを探してみましょう。」 ・ 気付いたことを発表させ共有する。	・ フィリピンの子どもたちとの出会いや、フィリピンに肯定的なイメージを教師がもっていることをはじめに伝える。	教師国内研修(フィリピンの子どもたちへのインタビュー)の動画
5分	4 世界の課題「ストリートチルドレン」の生活や原因、背景について知る。 <u>ストリートチルドレンって何だろう？</u> 「実は、インタビューに答えてくれた子どもたちは、以前ストリートチルドレンでした。ストリートチルドレンの生活・原因・背景について確認しましょう。」 ・ 次の時間に課題について深く考えることを伝える。	・ ICANの動画から、写真や資料を引用したことを伝える。	教師国内研修(ICAN)の動画資料
評価規準に基づく 本時の評価	・世界の文化のおもしろさを味わい、楽しんで活動に参加できた生徒が多かった。 ・共通点に気づく場面では、共感できるところもあったようだが、課題を身近に感じるまでには資料や時間が十分ではなかった。		

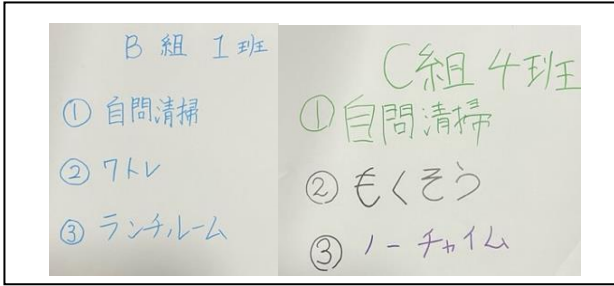
[本時の展開（2時間目）]

ねらい	<p>・世界の人権に関する課題が放置されるとどうなるか考え、世界中のみんなが幸せになるために、自分にできることを考え行動することができる。</p>		
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
深める 30分	<p>5 世界の課題が解決されず放置され、続いていくとどうなるかを考える。</p> <p>路上生活から抜け出せないとどうなる？【派生図】 「ストリートチルドレンが路上生活から抜け出せないとどうなるかを、グループで派生図をかいて考えましょう」</p> <p>①派生図をグループでかく。 ②「子どもの権利条約・4つの原則」を知り、視点を増やして派生図を書き足す。 ③命に関わる最悪の結末だと思うもの3つに☠マークを貼る。 ④心に関わる最悪の結末だと思うもの3つに♥マークを貼る。 ⑤派生図に出た意見がSDGsの何番に関わるか考え、番号を書き足す。 ⑥ギャラリー方式で派生図を共有する。</p> <p>・ドクロマークやハートブレイクマークが貼られるということは、人権が守られていない状況であることを確認する。</p>	<p>・派生図を書くときには、仲間の意見に付け足したり、広げたりするとよいことを伝える。</p> <p>・派生図作成がなかなか進まないグループには、新しい視点となる意見を教師が書き足す。</p> <p>・ギャラリー方式で派生図を見に行くときには、いいと思った意見を覚えてくることにし、後でグループで共有させる。</p>	<p>子どもの権利条約より「4つの原則」</p> <p>SDGsロゴ</p>
5分	<p>6 アイキャンの取組について聞き、課題の解決方法の1つを知る。</p> <p>アイキャンの取組を知ろう 「ストリートチルドレンが路上生活から抜け出すために、活動しているアイキャンという団体があります。アイキャンの具体的な取組や、解決するために行動している人の考えを紹介します。」</p>	<p>・アイキャンが名古屋にあることを伝え、身近に活動する団体があることを伝える。</p>	<p>教師国内研修(ICAN)の資料</p>
10分	<p>7 世界の仲間と笑顔になるため、よりよい世界になるため、自分にできることを考える。</p> <p>今すぐできること、大人になったらできること 【ブレインストーミング】 「ストリートチルドレンのような世界の課題を解決して、世界の仲間とともに笑顔で暮らすために、自分たちができることを考えましょう。今、中学1年生の自分にできることと、大人になったらできることを、グループで書き出してみよう。」</p> <p>・様々な意見が出るように、グループを指名して発表させる。</p>	<p>・実際にできないかもしれないと思っても、とにかく様々な意見を多く出すことに重点を置いて考えさせる。</p>	
5分	<p>8 よりよい世界にするために、自分の行動宣言を表明する。</p> <p>行動宣言をしよう【行動宣言】 「中学1年の今行動したいことと、大人になったらやってみたいことを考え、ワークシートに行動宣言しましょう。」</p>	<p>・学習活動7のブレインストーミングを参考に、自分ができそうなことを考えて行動宣言させる。</p>	
<p>評価規準に基づく本時の評価</p>		<p>・グループで派生図を作成したことで、ストリートチルドレンという世界の課題が「貧困」や「教育」「経済格差」など、様々な課題につながることに気づくことができた。ドクロマークやハートブレイクマークにより、人権が侵されている状況であることを実感させられた。</p> <p>・時間の関係で、生徒が自らよりよい世界にしたい、そのために行動したいと思わせる活動ができなかった。行動宣言はしたものの、実際に行動に移すまでを丁寧に進めていけるとよい。</p>	

〔総括・まとめ〕

学習方法および外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・ ブレーンストーミングを取り入れ、どのような意見も肯定的に受け止められ、思いついたことをグループで共有できる雰囲気にした。 ・ クイズや説明の際は、写真(フォトランゲージ)を見せて、イメージを膨らませた。 ・ 派生図を用いることで、グループの仲間と意見を交流させたり、広げたりできるようにした。また、途中で新たな視点を提示し、派生図を深めさせた。
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 簡単な指導案や大切にしたい流れ(肯定的に出会う⇒つながり・同一性に気づく⇒課題を一緒に乗り越える)を、本校の全教員に配付し、授業を自由に参観してもらえるようにアナウンスした。 ・ 2年・3年の総合的な学習の時間でも時間をもらい、SDGsについての授業を行った。その際も、参観してもらえるようにした。
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 限られた時間の中で、ねらい達成や重視した流れを大切にプログラムを組んだため、強引に授業を展開する場面もあった。行動に移すまで、丁寧に学習活動を進められたらよかった。 ・ 普段授業に入っていない学年での授業となり、生徒のことをよく知らずに展開したため、リズムよく進めたり、適切な助言を行えたりできなかった。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・ よりよい世界のために何ができるかを考える前に、どのような世界になるとよいかを考えさせると、生徒自ら行動したいと意欲を高め、行動宣言も具体的になると思った。 ・ 今回は、時間も短く、「ストリートチルドレン(貧困)」しか扱えなかったが、他の課題についても取り上げるとよい。
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・ はじめに世界と肯定的に出会うことで、興味がふくらみ、一人一人が真剣に意欲的に課題について考えることができた。 ・ 派生図を作るときに様々な視点を提示することで、考えが広がったり、話し合いが深まったりした。 ・ 貧困を解決するためのアイキャンの取組を知り、将来、自分も世界のために働きたいと国際協力に興味をもった生徒がいた。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次ページの写真参照
授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教師国内研修での学びをいかすために、このプログラムの続きを2年次に行い、つながる学び、続く学びとなるよう、学校全体に広げていきたい。また、誰もが授業ができるように、資料や指導案を全職員で共有し、様々な場面でSDGsについて考え、持続可能な社会の創り手の育成に努めたい。 ・ 「肯定的に出会う」「つながりや同一性に気づく」活動は、子どもたちにとって世界の課題を自分事として捉える大切なステップであると実感している。その先に、ともに課題を乗り越えたり、ともによりよい世界を夢みたりできる人材が育っていくのだと考えている。
単元構想・実施における参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ 特定非営利活動法人アイキャン(ICAN)のHP ・ 教師国内研修でのインタビュー内容・動画・写真 ・ 教師海外研修での写真

[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]



▲ 弥北の特徴ベスト3



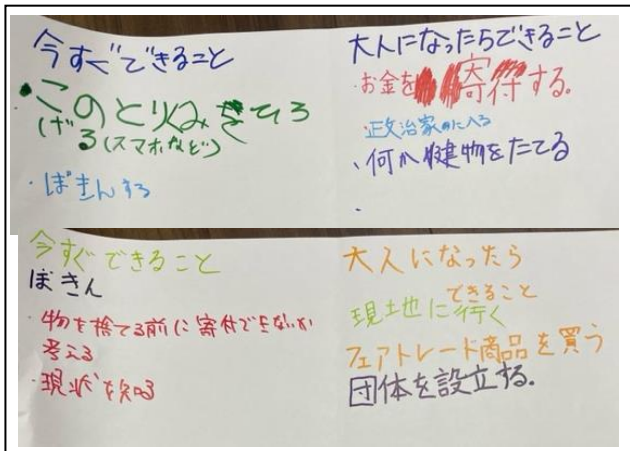
▲ 派生図「路上生活が続くとどうなる？」



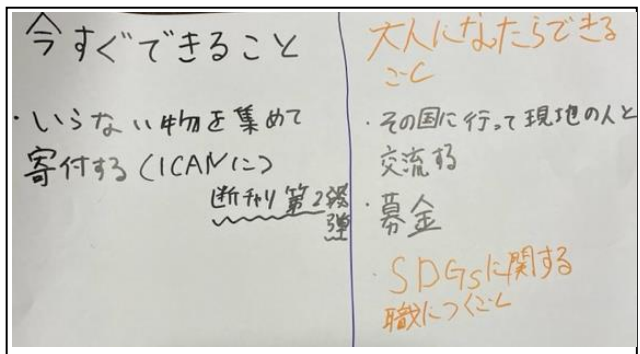
▲ 派生図「路上生活が続くとどうなる？」



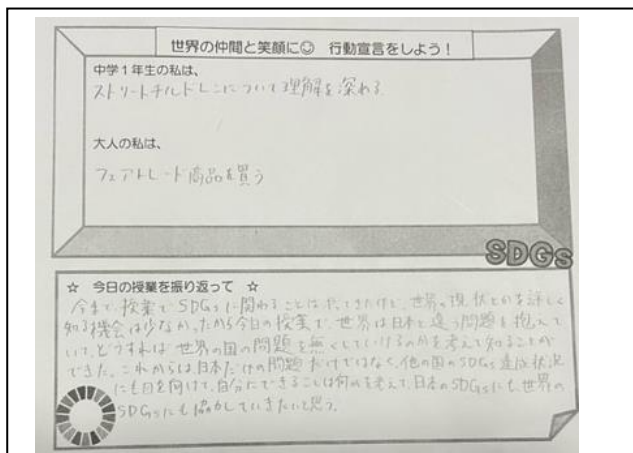
▲ 派生図「路上生活が続くとどうなる？」



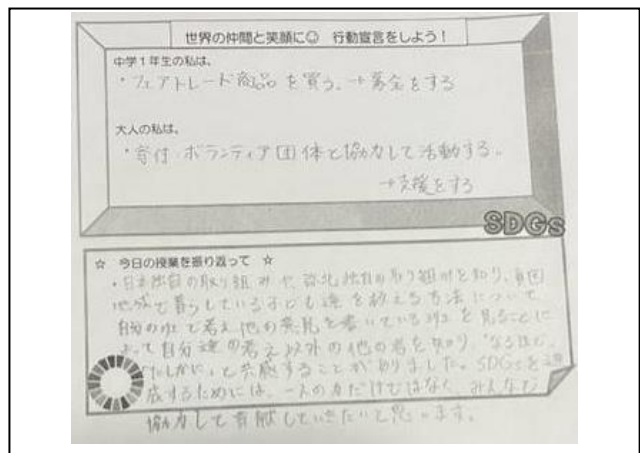
▲ 「今できること」「大人になったらできること」



▲ 「今できること」「大人になったらできること」



▲ 生徒のワークシート「行動宣言・感想」



▲ 生徒のワークシート「行動宣言・感想」

食でつながる世界と日本

学校名	愛知県立豊田高等学校	授業者氏名	澤田 直美
対象学年 (人数)	高校2年生(40名)	実践年月 (時数)	2022年 9月 (2時間)
担当教科等	英語		
単元名 (活動名)	日本の食料自給率、外国との食のつながりを知ろう		
実践する 教科・領域	コミュニケーション英語Ⅱ		
学習領域	<p>A 多文化社会 … 文化理解 () / 文化交流 () / 多文化共生 (○)</p> <p>B グローバル社会 … 相互依存 (○) / 情報化 ()</p> <p>C 地球的課題 … 人権 () / 環境 (○) / 平和 () / 開発 (○)</p> <p>D 未来への選択 … 歴史認識 () / 市民意識 (○) / 社会参加 ()</p>		
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の食生活に外国とのつながりがあることを知る ・普段の食生活を振り返り、食べ物や外国との関わりについて、今後の自分の行動の仕方を考える。 		
単元の 評価規準	知識および技能	<ul style="list-style-type: none"> ・普段食べているものは、外国からの輸入品が多いことを知る。 ・日本の食料自給率が低いことに気付く。 	
	思考力、判断力、 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・なぜ日本の食料自給率が低くなったか考えている。また、低い状態が続くとどうなるか考えている。 ・外国と日本に食を通して繋がりがあることを知り、お互いが支え合っていくにはどうしたらよいかグループで意見を出し合える。 	
	学びに向かう力、 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の食生活について、自分ができること、国ができることについて考え、行動しようとする事ができる。 ・普段の生活に外国との繋がりがあることに気づき、外国との関係に興味を持てる。 	
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の授業で野菜工場についての単元を扱った後に、今回の授業を行った。普段の生活に外国との繋がりがあることに気づき、今後の自分たちの食生活について考え、少しでも行動が変わっていくような機会になればと思い、授業を組み立てた。 ・日本が輸入に頼っている食品の中には、あまり生徒たちに馴染みのない国も多い。今回はコーヒー豆を生産しているルワンダを取り上げたが、クイズを通して日本との類似点にも気づき、肯定的に各国を見るきっかけにしたいと考えた。 ・普段の生活の中に外国とは切っても切り離せない関係があり、生徒が少しでも外国に興味を持ち、世界に目を向けてほしいと思う。 		

[単元計画 (全2時間)]

時	ねらい	学習活動	資料など
1 (25分) 本時	日本の食料自給率を知る 日本の食生活の変化について気付く	<ul style="list-style-type: none"> ・いつも食べているものはどこで作られたもの？ ワークシートを用いて、普段食べているもののうち、50%以上日本で生産されていると思うものにチェックを入れる。 →外国からの輸入品が多いことに気付く。 ・なぜ日本の食料自給率が下がったのか考える 【グラフ・表】 グラフ・表を配布し、読み取れることを書き出す。 →日本の食生活の変化・働き方の変化に気付く 	グループワーク イラスト ワークシート 参考) ・JICA「つながる世界と日本」 ・農林水産省 HP
2 (25分)	外国から来た食べ物について知る 外国と肯定的に出会う	<ul style="list-style-type: none"> ・ルワンダクイズ「この国どこでしょう？」 →途上国だと思っている国のイメージと実際とのギャップに気付く 日本や先進国との類似点を知る ・ルワンダ人のインタビュー →日本がほぼ輸入に頼っている食品を作っている人たちの現状を知る 	パワーポイント 参考) ・JICA「みんなが知らないルワンダのこと」 ・NPO 法人コーヒー生産地と協働する会インタビュー
3 (50分)	日本の食料自給率が低いとこれからどうなるか、どうしていけばいいか考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の食料自給率が低いままだとどうなるか、グループで話し合う 【派生図】→「まわしよみ」で共有 ・日本の食料自給率を上げるには何ができるか【対比表】 (1)個人 (2)企業 (3)日本 の3観点から考える →「まわしよみ」で共有 すぐできそうなこと、いいと思った意見に★をつける。 	グループワーク

[本時の展開 (1, 2時間目)]

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・普段の食生活に外国とのつながりがあることを知る ・普段の食生活を振り返り、食べ物や外国との関わりについて、今後の自分の行動の仕方を考える。 		
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
1 (25分)	<p>①日本の食料自給率を知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・いつも食べているものはどこで作られたもの？ ワークシートを用いて、普段食べているもののうち、50%以上日本で生産されていると思うものにチェックを入れる。 →外国からの輸入品が多いことに気付く。 ・なぜ日本の食料自給率が下がったのか考える【グラフ・表】 グラフ・表を配布し、読み取れることを書き出す。 →日本の食生活の変化・働き方の変化に気付く 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な問題として捉えられるように、普段の生活を振り返ることからのスタートにした。 ・困っているグループには、声をかける。この食材はどの国で作られていると思う？など。 	<p>グループワーク イラスト ワークシート 参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICA「つながる世界と日本」 ・農林水産省 HP
2 (25分)	<p>②外国から来た食べ物について知る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルワンダクイズ「この国どこでしょう？」 複数の写真を順番に見て、どの国か当てる。 →途上国だと思っている国のイメージと実際のギャップに気付く 日本や先進国との類似点を知る ・ルワンダ人のインタビュー →日本がほぼ輸入に頼っている食品を作っている人たちの現状を知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり馴染みのない国に対して肯定的に出会えるように、日本や普段馴染みのある国との共通点を感じられるような写真からスタート →異なる点の多い写真を見せる、という順番にした。 ・国内研修で聞いたNPOの方の話と、現地の方の話を伝え、普段食べているものがどこから来ているのか意識するきっかけを作る。 	<p>パワーポイント 参考)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICA「みんなが知らないルワンダのこと」 ・NPO 法人コーヒー生産地と協働する会インタビュー
3 (50分)	<p>③日本の食料自給率が低いとこれからどうなるか、どうしていけばいいか</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の食料自給率が低いままだとどうなるか、グループで話し合う 【派生図】→「まわしよみ」で共有 ・日本の食料自給率を上げるには何ができるか【対比表】 (1)個人 (2)企業 (3)日本 の3観点から考える →「まわしよみ」で共有 すぐできそうなこと、いいと思った意見に★をつける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議論が進んでいないグループにはヒントを与える。 ・まわしよみをすることで、より多くの考えを知る。これからすぐできそうなことを考えるきっかけを作る。 	
評価規準に基づく 本時の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・グループで協力して意見を出し合っている。 ・普段食べているものが、あまり馴染みのない国から来ている可能性に気付く。 ・食料自給率を高めるために今からできることをグループ内で意見を出し合い、考えることができる。また、外国との関わりを意識することができる。 		

〔総括・まとめ〕

学習方法および外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型の手法をいくつか使い、グループ内で意見交換ができるような機会を多く作るように心がけた。 ・授業で学んだこと、普段の生活と結びつくような授業展開を目指した。 ・国内研修で話を聞いた NPO 法人の方の話を取り入れた。
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・特になし
苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型の手法(派生図やまわしよみ等)に想定よりも時間がかかったこと。 ・食料自給率と外国との繋がりという難しいテーマだったため、生徒が目的に対して意見を出しやすいような資料作りを心掛けた。資料をこちらでかみ砕くことが必要であり、その点に苦勞した。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・2時間しか授業が確保できず、バタバタと終わってしまったような印象だった。生徒にもう少し深く考えるような機会を作りたかった。もしくは、少ない授業時間数の中であればもう少し絞った授業展開にすべきだと思った。 ・先進国が途上国から搾取していることがあるという点をあまり印象に残せなかった。
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・普段食べている食料の多くが外国からの輸入品だということに気付き、輸入が止まると今と同じような生活は送れないことを気付かせることができた。 ・本授業の前に行った野菜工場について、上手に利用していくことを提案したり、自分たちで野菜等を育ててみることも必要だという意見を持つ生徒がいた。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<p>[生徒アンケートより抜粋]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本の食料自給率が低いことは前から少し知っていましたが、こんなにも外国に頼って生活していることを再認識しました。 ・日本は外国の輸入に頼ったり、少子高齢化で農家の減少が起き、日本で賄える農産物が減少してしまっているため、個人が食料を廃棄しないことを心がけたり、野菜工場を上手く利用する必要があると思いました。 ・今は外国からきている食べ物の方が安いイメージがあるけど、輸入している国に戦争が起こったりしてしまったら円安になってしまって日本にも影響し、食べ物以外のことも苦しい生活になってしまうんじゃないかと思いました。
授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は食をテーマにしたが、普段の生活で外国との関係は切っても切り離せない。外国で起きる問題が日本に大きく影響することもあるということに気付いた生徒が多かった。日本と世界との繋がりを今までよりも意識できるようになり、普段の生活に小さなことでも変化が起きることで、少しずつ問題解決に繋がるのではないかと考える。 ・知らないことは「怖い」と感じがちであるが、今回の授業の導入で行ったように、知らない国にも共通点があると知るだけで急に親近感がわく。国際理解教育や英語教育を通して、世界や言語、自分と異なるものに興味を持てるようなきっかけをこれからも作りたかった。
単元構想・実施における参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA「つながる世界と日本」 ・農林水産省ホームページ ・JICA「みんなが知らないルワンダのこと」 ・教師国内研修 NPO 法人コーヒー生産地と協働する会インタビュー

[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]



▲ 食料自給率ワークの様子

▲ 食料自給率ワークの様子

個人	企業	日本
<ul style="list-style-type: none"> 日本の食料を買うのにする。 できる限りの範囲で自給自足を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 最低限のコストで食料を作る。 農業の会社を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> 輸入にたよらない。 生産者の支援を増やす。

なぜ食料自給率が下がったのか

- 1 輸入した食品をよく食べて国産のものの需要が減ったから。
- 2 田んぼと畑の面積が減ったから。
- 3 高齢化で農業を仕事にする人が減ったから。

個人	企業	日本
<ul style="list-style-type: none"> スーパーで国内産の野菜を買う 国産の野菜(野菜の) 野菜の 	<ul style="list-style-type: none"> 農業の支援 国内産の野菜を増やす 食料を増やす 農業の会社を増やす サブスクリプション(月額)の野菜を届けるサービスを増やす 	<ul style="list-style-type: none"> 農業の支援 畑を増やしてやる 国内産の野菜を販売する → 国内産の野菜を販売する 農家の増やす政策を増やす

↓ なぜ食料自給率が下がったのか ↓

- ・食料自給率が高いのは 輸入食が多かった。 ⇒ ごはんの洋風化
- ・食料自給率が低いのは 輸入食が多かった
- ・外国のごはんがおいしかった!
- ・偏食が多くなった...
- ・牛乳がすごく増えている。(内食)

▲ これからどうしていけばよいか

▲ なぜ食料自給率が下がったのか

Well-being な社会を実現するために～貧困を事例として～

学校名	金城学院高等学校		授業者氏名	地頭 綾香
対象学年 (人数)	高校1年生(36名×2クラス)		実践年月 (時数)	2022年9月 (3時間)
担当教科等	国語・Dignity(総合的な探究の時間)			
単元名 (活動名)	なし			
実践する 教科・領域	総合的な探究の時間			
学習領域	<p>A 多文化社会 … 文化理解(○) / 文化交流() / 多文化共生()</p> <p>B グローバル社会 … 相互依存() / 情報化()</p> <p>C 地球的課題 … 人権(○) / 環境() / 平和() / 開発()</p> <p>D 未来への選択 … 歴史認識() / 市民意識() / 社会参加(○)</p>			
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・企業及び団体が Well-being な社会実現に向けて様々な支援をしていることに気づく。 ・貧困の仕組みを知り、そこから抜け出すとどんな変化があるかを考える。 ・ Well-being な社会にするために、何が出来るかを考える。 			
単元の 評価規準	知識および技能	<ul style="list-style-type: none"> ・企業及び団体が Well-being な社会実現に向けて何をしているかを把握することが出来る。 ・貧困の仕組みについて理解することが出来る。 		
	思考力、判断力、 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困を断ち切るために支援している団体の取り組みについて分析し、支援の前と後について、自分の言葉で説明することが出来る。 		
	学びに向かう力、 人間性等	<ul style="list-style-type: none"> ・ Well-being な社会にするために、学校・個人で出来ることを考え、行動しようとする事が出来る。 		
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	<p>・本校では、1学期に SDGs について学び、2 学期及び 3 学期に SDGs のグループ探究を行うプログラムが組まれている。今年度の学年テーマは、「 Well-being な社会実現をするために」であり、グループ探究の各々のテーマ決めの導入として本授業を行った。夏休みに、各企業及び団体が Well-being な社会実現に向けて、どのような取り組みをしているかを調べる課題を出した所、「環境」への取り組み例が多かった。よって、SDGs の柱の1つである「人権」にも目を向けて欲しいと考え、様々な課題がある中で「貧困」に焦点を当てて授業を行った。</p>			

[単元計画 (全3時間)]

時	ねらい	学習活動	資料など
1	<ul style="list-style-type: none"> ・Well-being な社会にするために解決すべき課題を把握する。 ・企業及び団体が Well-being な社会にするために様々な支援を行っていることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク:私が Happy になれるコト・モノについて紹介。 ・Well-being な社会にするために解決すべき課題(世界・日本・身近、どれでも良い)を探し、模造紙にグループで書き出す。 【ブレンストーミング】→【まわし読み】 ・企業が、Well-being な社会実現に向けて何をしているか把握する。 ①夏休み宿題の共有(企業とSDGs)【共有】 ②企業の取り組みを付箋に書き出し、プレストした模造紙に貼る。【分類】 ③SDGs のシールを模造紙に貼りながら、各企業の取り組みは SDGs の何番にあたるのかを把握すると共に、残った番号シールを確認して、残った理由を考える。 ・振り返りを ClassiNOTE に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休みの宿題(企業と SDGs の調べ学習プリント) ・SDGs シール ・ClassiNOTE
2 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困の仕組みを理解する。 ・貧困を断ち切るための方法を考える。 ・貧困を断ち切るために支援している団体(アイキャン)について分析し、支援の前と後について、自分の言葉で説明できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク:この国はどこ? 【フォトランゲージ】 ・貧困の仕組みを理解する。【貧困の輪】 ・貧困を断ち切るためのキーワードを書き出す。 【ブレンストーミング】 ・貧困を断ち切るために支援している団体(アイキャン)について知り、支援の効果を把握する。 ①情報分析:支援内容・支援を受けた人の声を読む。【ジグソー法】 ②支援の前と後を模造紙にまとめる。【対比表】 ・振り返りを ClassiNOTE に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンの写真(肯定的な写真・課題となる写真) ・貧困の輪 ・アイキャン資料 ・ClassiNOTE
3 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・アイキャンの子ども達の状況を把握する。 ・企業以外の団体の支援内容を知り、支援したことで、貧困の輪のどこを断ち切っているのかに気づく。 ・Well-being な社会にするために、学校・個人で出来ることを考え、行動宣言をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイキャンの子ども達の状況をVTRで見て、気づきを ClassiNOTE に記入する。【共有】 ・企業以外の団体の支援内容を iPad 調べてグループで紹介すると共に、貧困の輪のどこを断ち切っているのかを把握する。【共有】 ・貧困問題に学校・個人でアプローチするためのアクションを個人及びグループで考える。 【対比表】【共有】 ・クラス全体で「金城生のアクション9箇条」を作る。【行動宣言】 ・振り返りを ClassiNOTE に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイキャン VTR ・ClassiNOTE ・JICA の取り組みの資料 ・教師国内研修資料 ・ClassiNOTE

[本時の展開 (2・3時間目)]

ねらい	<p>【2時間目】貧困の仕組みを知り、そこから抜け出すとどんな変化があるかを考える。</p> <p>【3時間目】Well-being な社会にするために、学校・個人で何が出来るかを考え、行動宣言をする。</p>		
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・アイスブレイク:この国はどこ?【フォトランゲージ】 ➢ 「どこから〇〇(国名)と考えたのか根拠も添えよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題となる写真だけでなく、肯定的な出会いが出来る写真も準備。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フィリピンの写真(肯定的な写真・課題となる写真)
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困の仕組みを理解する【貧困の輪】 ➢ 「正解は1つではないので貧困になる流れを説明できるようにしよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・多数決ではなく、話し合いをして決めさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困の輪
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困を断ち切るためのキーワードを書き出す。【ブレンストーミング】 	<ul style="list-style-type: none"> ・進んでいないチームに声かけをする。 	
20分	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困を断ち切るために支援している団体(アイキャン)について知り、支援の効果を把握する。 ①情報分析:支援内容・支援を受けた人の声を読む。【ジグソー法】 ➢ 「グループの他のメンバーに説明できるように準備をしよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・支援の前と後を意識し線の引き分けをさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイキャン資料(1グループ4枚)
5分	<ul style="list-style-type: none"> ②支援の前と後を模造紙にまとめる。【対比表】 ・振り返りを ClassiNOTE に記入する。【共有】 	<ul style="list-style-type: none"> ・数名の感想をクラスで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ClassiNOTE
10分	<ul style="list-style-type: none"> ・前回の振り返り ・アイキャンの子ども達の状況をVTRで見て、気づきを ClassiNOTE に記入する。【共有】 ➢ 「自分のイメージとVTRに違いはあったか？」 	<ul style="list-style-type: none"> ・数名の感想をクラスで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アイキャン VTR(アイキャン HP)
15分	<ul style="list-style-type: none"> ・企業以外にも国際協力を行っている支援団体をスライドで提示すると共に、JICAの取り組みを一例としてプリントで示す。 ・企業以外の団体の支援内容を iPad 調べてグループで紹介すると共に、貧困の輪のどこを断ち切っているのかを把握する。【共有】 ➢ 「貼りだしたのから見える特徴は？」 	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な国際協力の方法があることをスライドで提示。 ・企業以外の団体の幅が広いので、いくつか例を提示すると調べやすい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA の取り組みの資料 ・国内研修まなびノート ・貧困の輪(前回使用したもの)
15分	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困問題に学校・個人でアプローチするためのアクションを個人及びグループで考える。【対比表】【共有】 ➢ 「少し背伸びしたら出来ることを探してみよう」 	<ul style="list-style-type: none"> ・個人で考える時間をしっかりと取り、グループで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ClassiNOTE
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス全体で「金城生のアクション9箇条を作る。【行動宣言】 	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドに映しながら提示をして共有する。 	
5分	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りを ClassiNOTE に記入する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数名の感想をクラスで共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ClassiNOTE
評価規準に基づく本時の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困の仕組みについて理解することが出来たか。 ・貧困を断ち切るために支援している団体の取り組みについて分析し、支援の前と後について、自分の言葉で説明することが出来たか。 ・ Well-being な社会にするために学校や個人で出来ることを考え、行動宣言が出来たか。 		

〔総括・まとめ〕

学習方法および外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・教師国内研修で訪問した「アイキャン」との連携も考えたが、今年度はコロナの関係から断念した。しかし、10月以降のグループ探究の際に、今回の授業をきっかけにアイキャンの活動やフィリピンの現状に興味を持ったグループが出てきたため、メールでアイキャンの方に質問させて頂くという形で連携が取れた。 ・参加型の手法を取り入れることで、生徒達がグループのメンバーと主体的に対話し、意欲的に活動に参加する姿勢が見られた。
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・Dignity(総合的な探究の時間)を担当している同学年の先生方及び校内で興味を持って下さった先生方に成果物や授業実施の状況について報告をした。 ・2月に実践報告のフォーラムがあることに関して、勤務校の高校の教員並びに中学の教員に管理職からアナウンスをしてもらった。
苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型の手法に対し、生徒達が意欲的に取り組んでいたものの、時間の都合で、アクティビティを途中で切ってしまう場面もあり、時間配分に苦勞した。 ・振り返りが書ききれず宿題とした生徒もいたため、もう少し時間に余裕を持たせるべきであった。 ・模造紙の配布などもあるため、1人での運営はなかなか難しいと感じた。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・協力者を募り、複数人の教員で運営が出来るとスムーズに進めることが出来る。 ・週をまたぐため、記憶が薄れがちな生徒もいた。よって、連続で授業が取れると良い。 ・実際に自分が訪問したことのある国で構成すると、より話に説得力が増すといえる。
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型の手法のため、全員が積極的に参加をしていた。特に、普段あまり発言をしない生徒が模造紙に書く際に勢いよく書き出す様子が見られたことは大きな成果であった。 ・貧困の仕組みを捉えた上で、行動宣言をあげることが出来たため、「自分ごと化」に繋がったといえる。 ・10月から実施したグループ探究の際に、アイキャンの課題を題材としたグループが出てきた。アイキャンの方と連絡を取り、質問に答えて頂くこともでき、本授業が更に発展したといえる。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困から栄養不足や教育格差が生まれ、そこから巡り巡ってまた貧困に繋がることが分かりました。貧困のサイクルの内の何か1つでも満たしてしまうと、貧困になってしまうので、全てを解決に導くのは難しいことだなと思いました。ですが、今日のグループワークで貧困には多くの解決策があることも知れたので、まずは少し背伸びをしたら出来ることから始めていきます。(ClassiNOTE 振り返りより) ・学校や個人で出来ることに関して、こんなにたくさんのアイディアが出て、すごいなと思った。もっとたくさんの人でアイディアを出し合ったら、より良いアイディアが集まると思うので、沢山の人の人と考えていきたい。また、考えるだけでなく、行動にうつせるようになりたい。(ClassiNOTE 振り返りより)
授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・今回は3時間という時間設定及びコロナ禍という都合上、外部との交流は残念ながら出来なかった。次年度以降は、オンラインでフィリピン子ども達と交流する機会を持てると、更に学びの質が変わるといえる。今回のプログラムをブラッシュアップさせて、本校の他の教員も巻き込みながら次年度以降も実践を行っていただけると願っている。 ・参加型の手法になれるまでは、生徒も手法の理解に時間がかかる。よって、アクティビティの指示に関して事前にパワーポイントにまとめておくと良い。今回はまとめていたため、スムーズに進めることができた。
単元構想・実施における参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・ICANホームページ(https://ican.or.jp/)

[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]



▲解決すべき課題を模造紙に書きだし企業付箋を貼る(1時間目の授業より)

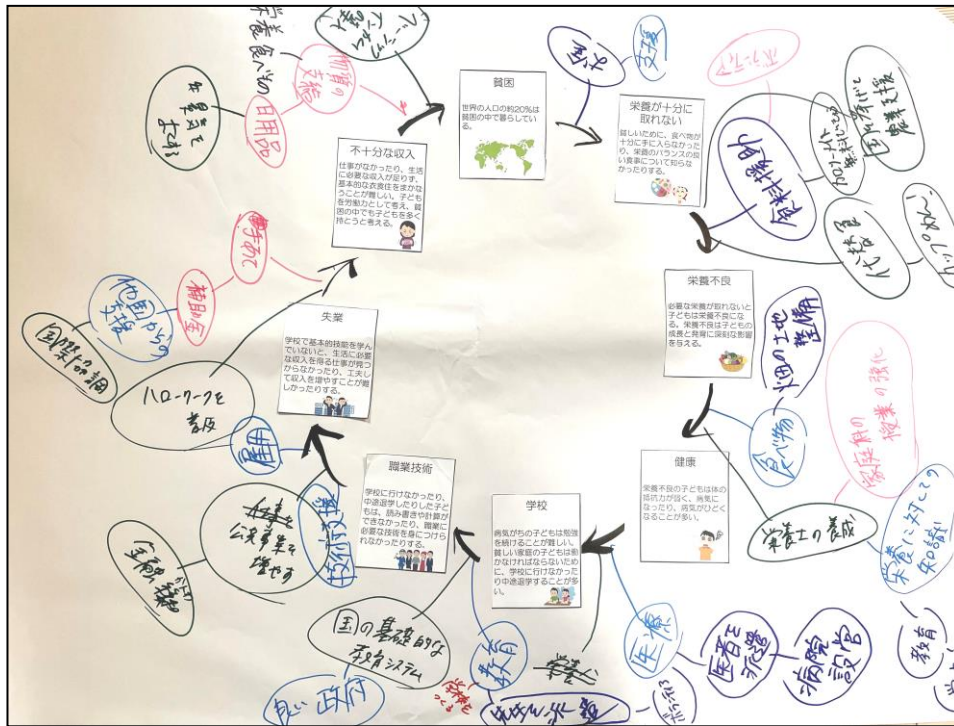
2学期第1回 本日の気づき・ふりがえり

【本日のねらい】
 ① Well-beingな社会にするために解決すべき課題とは何か気づく。
 ② 企業は、Well-beingな社会にむけて何をしているのか把握する。

7番、12番のエネルギーや物質の生産についての問題が挙げられなかったため、あまり身近に感じなくても、考えなければいけないと実感しました。
 どのSDGsに当てはまるのが微妙だったりどれにも当てはまりそうになくても、解決すべきだと思われる課題が沢山挙げられたので、SDGsにとられず様々な問題に目を向けることが大切なのではないかと思いました。
 SDGsと言われると、社会的な大きな問題を思い浮かべがちだけど、身の回りの小さな問題もSDGsの課題解決に繋がるので、まずはそちらに目を向けることを意識したいと思います。

▲ 1時間目の授業時の感想 (ClassiNOTE)

▲ 夏休みの宿題: 企業とSDGsの調べ学習プリント



▲ 貧困の輪に貧困を断ち切るためのキーワードを記載 (2時間目の授業より)

支援前	支援後
<ul style="list-style-type: none"> 子供が学校の先生やその他の大人から差別や偏見を受けていた。人間不信。 学校に行けず路上で荷物を売っていた。 5才未満の子供が30%ほど十分に栄養を得られていなかった。 路上で生活している青少年が職業への道を諦めていて貧困の連鎖が続いていた。 	<ul style="list-style-type: none"> 大人も信用するようになった。自立でき自信をみにつけた。 教育を受けて大切さを学び、自分に自信をもつようになった。 給食活動に参加したほとんどの子供たちが回復して親たちも、子供に対する理解が深まった。 1人で生活していた青少年が、仲間をもち、収入を得るようになった。

▲ アイキャンの支援前と支援後を対比表にしたもの (2時間目の授業より)

ふりかえり

学校や個人でできることを改めて考えたとき、募金しか頭に思い浮かばず、まず貧困ってそもそもどういふものか? という問いから始まりました。そんなとき、今までのdigの授業を思い出して、「貧困とは「ただお金がない」というだけの問題ではなく、教育、仕事、体の健康、心の健康などたくさんの方が繋がっていると気づきました。そこから今まで考えたこともなかった「金城生が、その国の言葉で、物語を作って絵も描いて本を作る」ということを思いつきました。本は心の健康や教育を助けられると思ったからです。自分たちで作ることで「ともに」も達成できると思います。

▲ 3時間目の授業のふりかえり(ClassiNOTE)

- ### 金城生のアクション9箇条! 1Dバージョン
- ① フェアトレードの商品を買う
 - ② ペットボトルの蓋の回収活動に参加して、リサイクルで集めた資金を寄付する
 - ③ 食事をする際に感謝して残さず食べる
 - ④ 企業と協力してSDGsに関わる商品を開発する
 - ⑤ 未使用文房具や使わなくなった教科書を回収して寄付する
 - ⑥ 金城弁当の売り上げの一部を寄付する
 - ⑦ Dignityのような授業を行い、みんなで話し合う機会を多く持つ
 - ⑧ 使わなくなったランドセルを送る
 - ⑨ 貧困について調べ、得た知識をみんなで共有する 例：授業・SNS

▲ 金城生のアクション9箇条(1年D組バージョン)

- ### 金城生のアクション9箇条! 1Gバージョン
- ① 物を買う時にどの国のどんな人が作ったのか考えるようにする
 - ② Dignityのような授業を増やしてSDGsについてみんなで考える
 - ③ 発展途上国の支援をする部活・クラブを作る
 - ④ 救缶鳥プロジェクトに参加をする
 - ⑤ 学校のもの(鞆や文房具)を送る
 - ⑥ 購買でフェアトレード商品を買う
 - ⑦ ランドセルを寄付する
 - ⑧ 現地の人たちとリモートで話してその国の状況を知る
 - ⑨ 貧困で困っている人が興味のあるような情報をSNSで発信する

▲ 金城生のアクション9箇条(1年G組バージョン)

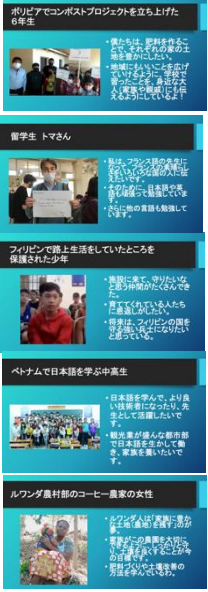
だれもが夢をつかめる世の中へ～今、自分にできること～

学校名	愛知県春日井市立北城小学校		授業者氏名	諏訪部 景子
対象学年 (人数)	小学校5年生(97名)		実践年月 (時数)	2022年 12月 (7時間×3クラス)
担当教科等	総合的な学習の時間			
単元名 (活動名)	国際理解「だれもが夢をつかめる世の中へ～今、自分にできること～」			
実践する 教科・領域	総合的な学習の時間・人権・教育			
学習領域	A 多文化社会 … 文化理解 () / 文化交流 () / 多文化共生 () B グローバル社会 … 相互依存 () / 情報化 () C 地球的課題 … 人権 (○) / 環境 () / 平和 () / 開発 () D 未来への選択 … 歴史認識 () / 市民意識 () / 社会参加 ()			
単元目標	・日本と世界の共通点・相違点を知り、国際協力に親近感をもつ。 ・世界の課題に対して、ポジティブ・具体的に考え、今自分にできるアクションを起こす ・さまざまな視点からの「協力」の仕方があると知る			
単元の 評価規準	知識および技能	・世界の国々の現状を知り、国際協力の方法を理解できたか		
	思考力、判断力、 表現力等	・世界の課題を見出し、解決の方法を発想・表現することができたか		
	学びに向かう力、 人間性等	・他者との協働を通じて、自分の考えを比較・検討し、今自分にできる協力の仕方を積極的に模索できたか		
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	・学習対象者に行った4月当初のアンケートでは、「国際協力」「世界の出来事」「他の国の人々の暮らし」に興味はあるものの、なかなか自分ごととしてとらえるのが難しいという意見が多数あった。ロシア・ウクライナの戦争のニュース、米中の対立などをきっかけに、他国との関わりを「怖い」と捉えている児童もいた。そのため、今回は以下の3点を実践のねらいに定めることにした。 ① 「世界の今」に少しでも肯定的に出会えるきっかけをつくる ② 教室の中からできる「協力」もあると知る ③ 「前向きな驚き」がある展開を設定する ・訪問国の様子や留学生へのインタビューなど、相手の顔や表情・様子がよくわかる資料を用いることで、視覚的にも気持ちにも訴えかける内容にしたいと思い、構成した。			

[単元計画 (全7時間)]

時	ねらい	学習活動	資料など
1・2	世界の課題や子どもがおかれている現状に目を向ける	「世界に目を向けてみよう！」 ・世界の実際を統計(割合)データから世界の現状を予想をする ・感じたことをジャムボードで共有する【知る・共有する】	資料「世界がもし100人の村だったら」
3	途上国の学校の様子について知り、多様性への理解を深める	「海外の学校の様子・子どもたちの生活をのぞいてみよう」 ・アイスブレイク「班のみんなの同じところ・違うところ」 ・フォトランゲージ&対比表で途上国の学校の様子・同年代の子どもたちの生活を知る ・面白いなどと思った違いを紹介し合う・共有する	【フォトランゲージ】【対比表】(グループごとに現地の学校の様子を資料で見比べる)
4 本時	日本に住む私たち・途上国の人々をもつ「それぞれの願い」を知り、共通点を見つける	「自分たちの願い・他の国の人たちの願いに思いを馳せてみよう」 ・アイスブレイク(自分について知る)「10年後、自分はどうなっていたい?」「そのために必要なことは?」「やってみたいなど思うことは?」 ・現地の人たちの夢や大切にしている思いや希望、願いについて知る	【重要性・必要性の理解】【日本の子どもの夢・途上国人々の希望・願い】
5	学ぶ場の重要性について知り、派生図を使って影響を考える	「学ぶ場があると・・・?学ぶ場がなくなると・・・?」 ・派生図(学ぶ場があると・・・学ぶ場がなくなると・・・) ・学ぶ場が失われると、どんな問題に発展していくのかを考える ・学ぶ場があってよかったことのエピソードに触れる(身近な職員へのインタビュー)	【派生図】 【職員インタビュー】校長先生・学年の先生を招いて、「学ぶ場があってよかったこと」をインタビューする
6	世界中の子どもが、学べるために必要なことを考える 学びが中断される原因の一つである「貧困」を断ち切るための国際協力について調べる	「学びにアクセスできるためには?? 国際支援について知ろう」 ・学びの機会へのアクセスがなくなる原因は? 【貧困の輪】 ・貧困の悪循環について知る・それを断ち切る国際協力について調べる	【貧困の輪】 悪循環を断ち切るための支援・協力の方法(訪問国ラオス・フィリピン・ルワンダ・エジプトの教育支援の例から)
7	学びの振り返り・まとめをする	誰もが夢を叶えられる社会づくりのために、共に考え、共に越えよう」 ・自分達が共感した支援・協力の仕方について紹介し合う ・自分達ができること・協力してみたいことを決め、スライドを作成する→気づきや思いをプレゼンする	

[本時の展開 (4時間目)]

ねらい	・日本に住む私たち・途上国の人々がもつ「それぞれの願い」を知り、共通点を見つける		
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
5 (5)	1. 本時のめあてについて知らせる。 「自分たちの願い・他の国の人たちの願いに思いを馳せてみよう」 ・アイスブレイク(自分について知る) 「10年後、自分はどうなっていたい？」 「そのために必要なこと・やってみたいことは？」	・今現在の自分の思いや願いの有無や内容に気づかせる。 ・授業の開始時と終末で見比べができるように、自分の感じたことを書き出させておく。(ワークシート・ジャムボードなど)	
15 (20)	2. 現地の人たちの夢や大切にしている思いや希望、願いについて考えさせる。 【重要性・必要性の理解】【途上国人々の希望・願い】 (例)・日本で学ぶ留学生の夢 ・フィリピンで路上生活をしていた少年の夢 ・孤児院で暮らす少女の夢 ・環境について学ぶボリビアの小学生の願い ・ルワンダのコーヒー農家の人々の思い ・日本語を学ぶベトナムの中高生の願い など	・訪問国で出会った人々の思いや、日本で学ぶ留学生の夢や希望をまとめた資料を提示する。 ・その夢を持つようになったきっかけやエピソード、生活のバックグラウンドの情報なども織り交ぜながら紹介する。	パワーポイントスライド資料「世界の人々の想い・願い(途上国・日本で学ぶ留学生へのインタビューより)」 
5 (25)	3. 授業担任の考えた、スピーチを紹介する。 ・10年後の未来に期待すること ・そのために、先生がやってみたいと思っていること	・本時の活動をより自分事として捉えられるように、教師自らの思いを伝える場面も用意しておく。	
10 (35)	4. 学びの振り返り・まとめをさせる。 「いろいろな国の人々の思いや願いを知って、改めて考えてみよう」 ・10年後の未来に期待すること ・そのために自分が頑張りたいこと	・初めに書いたワークシートに加筆させて、考えが広がったり、変化したりすることを肯定的に捉えさせる。	
5 (40)	5. 本時の学習の感想や気づきを交流させる。	・自分の思いの変化や他国の人々の想いに対する気づきを肯定的に捉えさせる。 ・必要に応じて小グループでも気づきを共有させる。	
評価規準に基づく 本時の評価	<p>・いろいろな国の人々の生活を知り、願いや思いを理解できたか。(知識および技能)</p> <p>・日本と世界の人々の思いから共通点を見つけ、共に願いを叶えようという親近感をもてたか。(学びに向かう力、人間性等)</p> <p>【評価基準】</p> <p>A…自分や他国の人々の思いや願いを知り、比較検討し、積極的に考えることができた。</p> <p>B…他国の人々の思いを一通り知ることができた。</p> <p>C…積極的に活動ができなかった。</p>		

[総括・まとめ]

学習方法および外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・一人1台端末を使った、グループ学習(Google ジャムボード・スライド・スプレッドシート) ・国際協力をしている団体についての調べ学習(JICA・DIFAR・WAFCA・アイキャン) ・訪問国や留学生へのインタビュー資料の活用(スライド資料)
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・人権週間に行った集会で、子どもが考えた人権標語を発表する。 ・子どもたちの学習状況を校内で共有する。 ・取り組みの流れを職員に共有する。
苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・限られた時間内で各テーマを検討させていくこと(授業時間の制約) ・資料の作成・整とん ・ICT 活用のための教材づくり ・日本と海外の文化の違いの補足説明、国際協力事業の背景にある事柄の補足説明
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・国内からも応援できる国際協力の在り方や団体について調べる学習(知る)までは取り組めたが、時間の都合で実際に協力するというアクションまでは繋げられなかった。 ・実際の交流・協力のプロジェクトを組み合わせるためには、年間計画を綿密に立てた上で、十分な時間数の確保が必要であると感じた。
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・他の国の人々の思いや願いに触れたことにより、「自分たちの思いや願いに重ねて考える」という積極的な姿勢が多くなりやすくなった。 ・「貧困」「学ぶ場のある・なし」の課題について、学習前よりも自分事としてとらえられる子どもが増えた。 ・自分にできることを考えようとする子どもが増えた。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・世界のいろいろな国の人の夢や気持ちが、自分達と似ているなど感じた。 ・同じくらいの歳の子供が、大変な思いをしながらも、家族や周りの人・地球の環境のことまで考えて行動していると知って、かっこいいなと思った。 ・世界のことをもっと知りたいと思ったし、自分でもできる協力があると知って、何かチャレンジしたいと感じるようになった。 ・日本と世界の違いに驚いた。あっていい違いもあるし、そうでない違いもたくさん見つかった。
授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・ICT の活用で多くの写真・映像資料を共有したり、興味・関心に合わせて調べたり出来る。 ・訪問先の国の人々や留学生の声が聞けたり、顔が見られたりすると、世界と繋がっている実感がもてる。関心ももてた。 ・アウトプットの間(意見の発信・行動・プレゼンテーション)があると、学びがより「自分事」になる。 ・日本との時差がある国が多いため、学校の授業時間内での直接のオンライン交流は難しい部分もある→交流先と連絡ができれば、ビデオレター形式でのやり取りは可能だと感じた。
単元構想・実施における参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型アクティビティ集 コミュニケーション編 ・知っていますか？SDGs ・私たちが目指す世界 ・JICA 中部 教師海外研修ガイドブック ・世界がもし100人の村だったらワークブック ・世界がもし100人の村だったら4 子ども編 ・きみたちにおくるうた むすめたちへの手紙 バラク・オバマ

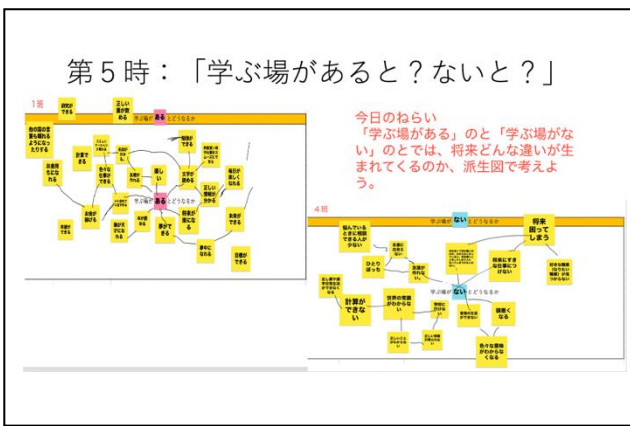
[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]



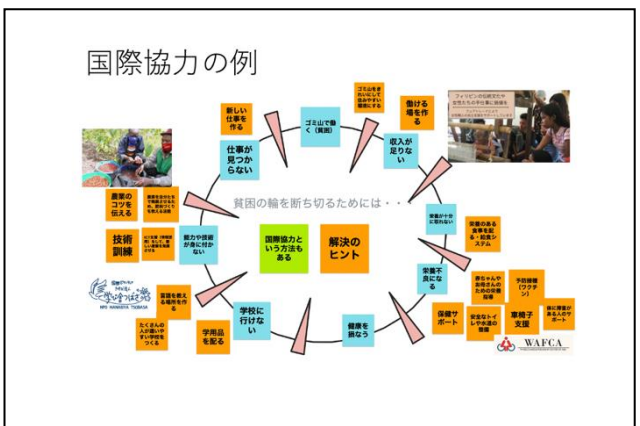
▲ 第3時：途上国の学校・子どもたちの生活をのぞいてみよう(資料)



▲ 第3時：学習後の気づき



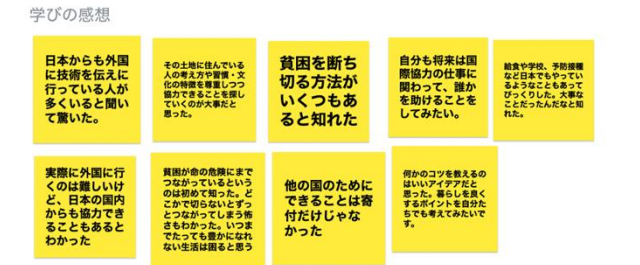
▲ 第5時：学ぶ場があると・ないと(派生図・グループワーク)



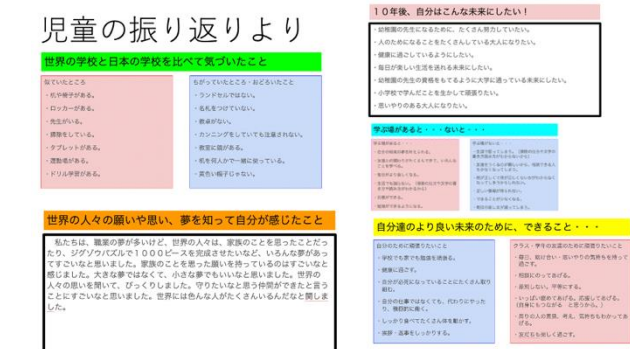
▲ 第6時：貧困の輪を断ち切るための国際協力の例



▲ 第7時：今、自分達の教室からできること



▲ 7時間分の学習を通しての感想例



▲ 振り返りのプレゼン例

取り組もう！ゴミッション！！

学校名	愛知県 名古屋市立東海小学校		授業者氏名	森谷 朋香
対象学年 (人数)	小学校5年生(21名)		実践年月 (時数)	2023年 2月 (8時間)
担当教科等	全教科			
単元名 (活動名)	取り組もう！ゴミッション！！			
実践する 教科・領域	総合的な学習の時間			
学習領域	A 多文化社会 … 文化理解 (○) / 文化交流 () / 多文化共生 () B グローバル社会 … 相互依存 () / 情報化 () C 地球的課題 … 人権 () / 環境 (○) / 平和 () / 開発 () D 未来への選択 … 歴史認識 () / 市民意識 () / 社会参加 ()			
単元目標	・ボリビアの文化、ゴミ問題と解決方法について知る。 ・身の回りでもごみ問題があることに気づき、解決するために自分でできることを考え行動する。			
単元の 評価規準	知識および技能	・ボリビアの文化、ゴミ問題と解決方法について理解することができる。。		
	思考力、判断力、 表現力等	・ゴミ問題の原因や影響を考えることができる。		
	学びに向かう力、 人間性等	・ゴミ問題を解決するために自分でできることを考え行動しようとするができる。		
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	<p>本学級では、2学期の総合的な学習の時間に様々な国の文化や日本とのつながりについて調べて紹介したり、SDGsについて学習したりした。子どもたちは世界の国に興味を持って紹介しあったり、日本との共通点や相違点に気付くことができた。また、世界の課題についても知ることができた。</p> <p>今回は、対象を1つの国に絞り、ゴミ問題をテーマにして実践した。他国の課題から自分たちの生活でも起こっていることとして捉えなおし、自分にできることを考えて行動できるように実践していく。</p>			

[単元計画（全8時間）]

時	ねらい	学習活動	資料など
1	ボリビアの文化やゴミ問題について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ボリビアの衣食住や文化、日本とのつながりについて知る。【フォトランゲージ・クイズ】 ・ボリビアのゴミ問題の写真を見て、グループで気付いたことや思ったことを書き出す。 【フォトランゲージ・ブレーンストーミング】 ・各グループの意見を全体で発表する。 ・振り返り 	写真、クイズシート
2	ゴミ問題の影響を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ問題を放置するとどんな影響があるかをグループで書き出す。【派生図】 ・回し読みをして、人体に被害が及ぶものに印をつける。 ・振り返り 	模造紙
3	ボリビアでのゴミ問題の解決法を知る。	<ul style="list-style-type: none"> ・動画やエコサントイレやコンポスト、環境教育の取り組みについて知る。【フォトランゲージ】 ・振り返り 	動画・写真
4	身の回りのゴミ問題に気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りのゴミ問題をグループで書き出す。【ブレーンストーミング】 ・家庭や学校だけでなく、企業や公共施設などでもゴミ問題があることを知る。【フォトランゲージ】 ・振り返り 	模造紙・写真
5	ゴミ問題の原因を考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ問題の原因となるものや行動をグループで書き出す。【因果関係図】 ・回し読みをして、自分たちに関係があるものに印をつける。 ・振り返り 	模造紙
6 本時	ゴミ問題を解決するために自分にできることを考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・ゴミ問題を解決するためにできることをグループで書き出す。【ブレーンストーミング】 ・自分が取り組もうと思う順にランキング付けをして、グループで共有する。 ・振り返り 	模造紙
7・8	取り組みの様子をまとめ、伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ・取り組みの様子や感想を新聞にまとめ、発表する。 	新聞シート

[本時の展開 (6時間目)]

ねらい	・ゴミ問題を解決するために自分にできることを考える。		
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
5分	1 前時のふりかえりをする。 ・身の回りのゴミ問題やその原因について、写真や成果物で振り返る。	・写真や成果物を見せながら、どんなゴミ問題があったか、原因は何があったかを聞く。	写真や成果物
20分	2 ゴミ問題を解決するためにできることを考える。 【ブレインストーミング】 ・「日本」「地域」「学校」「個人」の4つの視点でゴミ問題を解決するためにできることを、グループで書き出す。 ・回し読みをして、他グループの意見を知る。	・身の回りのゴミ問題や、原因から、それらをなくすための方法を考えさせる。 ・取り組んでみようと思うものに☆印をつける。	
15分	3 ランキング付けをする。 ・取り組みやすい、効果が高そうなど、自分が取り組もうと思う1～3位を決める。 ・順位とその理由をグループで共有する。	・決められない児童には選択肢を与えて選ばせる。 ・ランキングで決めたものを2週間意識して取り組み、2週間後に新聞にまとめることを伝える。 ・グループの子の発表に対して励ましの声掛けをするようにさせる。	
5分	4 振り返り ・今日の学習で考えたことを振り返りシートに書く。 ・グループで共有する。	・本時の活動を振り返り、考えたことや自分の取り組みの意気込みなどを書かせる。	
評価規準に基づく本時の評価	振り返りシートには、「自分たちにもできることがたくさんあった。」「自分にできることをやっていきたい。」などの気付きや意欲の高まりがみられる記述が多くあった。		

〔総括・まとめ〕

学習方法および外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型手法を用いて子ども一人一人が自分の考えを表出できる表出できるようにした。 ・ポリビアの文化や日本とのつながり、ゴミ問題の現実を知るために、写真や動画を活用した。
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・成果物を掲示し、他学年や保護者に見てもらえるようにした。
苦勞した点	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な参加型手法を取り入れたため、やり方に慣れておらず時間がかかったり意見が出にくかったりしたことがあった。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎時間の振り返りで、何について振り返るのか視点を明確にしておくことで学習をより深めることができた。
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・最初にポリビアとの肯定的な出会いをしたことで興味を持ち、その後の活動も意欲的に取り組むことができた。 ・課題解決のための方法を自分で考えて行動する経験をさせることができた。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・ポリビアと日本のつながりを知って面白いと思った。 ・日本にもゴミ問題はあると思った。 ・ゴミ問題はいろんな原因があることが分かった。 ・ゴミを減らす取り組みを続けていきたいと思った。
授業者による自由記述	<p>・これまでは、世界の様々な文化について調べたり体験したりする実践をしてきたが、今回は1つの国について文化や課題を掘り下げた。じっくりと時間をかけてその国のことや日本とのつながりを知ったり、課題について自分事として捉え解決のための行動を考えたりする経験を積ませたいので、他の国についても実践していきたい。</p>
単元構想・実施における参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・わたしたちの地球と未来 ポリビア共和国 ・国内研修フィールドワークでの写真や動画

教室ダイバーシティ ～ともに暮らす～

学校名	岐阜県可児市立広見小学校		授業者氏名	山本 実穂
対象学年 (人数)	小学校5年生(31名)		実践年月 (時数)	2022年 12月～2月 (4時間)
担当教科等	体育科			
単元名 (活動名)	教室ダイバーシティ ～ともに暮らす～ (多様性)			
実践する 教科・領域	総合的な学習の時間			
学習領域	<p>A 多文化社会 … 文化理解 (○) / 文化交流 () / 多文化共生 (○)</p> <p>B グローバル社会 … 相互依存 () / 情報化 ()</p> <p>C 地球的課題 … 人権 (○) / 環境 () / 平和 () / 開発 ()</p> <p>D 未来への選択 … 歴史認識 () / 市民意識 () / 社会参加 ()</p>			
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身の回りの多様性について知り、認め合いながら生活することの良さに気付く。 ・言語や文化を「知る」ことで生まれる世界とのつながりについて考え、異文化への関心をもつ。 ・外国にルーツをもつ友達も、共に幸せに生活するために、自分にできることを考える。 			
単元の 評価規準	知識および技能	・多様性について知り、互いを認め合うことの良さに気付くことができる。		
	思考力、判断力、 表現力等	<ul style="list-style-type: none"> ・言語や文化を「知る」ことにどんなよさがあるかを考えることができる。 ・多様性を認め合って暮らすために自分にできることを考えることができる。 		
	学びに向かう力、 人間性等	・異文化に関心をもち、進んで知ろうとすることができる。		
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	<p>・本校には外国籍の児童が多く、本学級にもブラジル・フィリピン・ペルーにルーツをもつ外国籍の児童が6人在籍している。幼い頃からこのような環境で育っているため、日本国籍の児童も、外国籍の児童も、一緒に生活することへの違和感はない。しかし、どこことなく、外国籍の児童は日本に染まることが良いとされるような風潮があり、これまで自分のルーツを表に出した経験が少なかった。日本国籍の児童は、同じ学級の仲間ですら、外国籍の児童がどこの国にルーツをもつかを知らなかった。今回の実践を通して、「知らずに見過ごしながら」ではなく「知った上で互いを受け入れながら」生きる力を身につけさせたいという思いから、この単元を設定した。</p> <p>・本単元に入る前の導入として SDGs について楽しみながら学ぶ活動を行った。児童にとって「SDGs」という言葉は、聞いたことがある程度であったが、世界に目を向けるという学び自体が新鮮で、興味をもつ様子が見られた。特に、「人や国の不平等をなくそう」という目標は、興味を持った児童が多かった。今回の教材は多様性が大きなテーマではあるが、SDGs との関連も示しながら、児童が考えるきっかけを作っていきたい。</p>			

[単元計画（全4時間）]

時	ねらい	学習活動	資料など
1	身近にある多様性について知り、多様性が認められることの必要性に気付く。	① 4つのコーナー【アイスブレイク】 教室に4つのコーナーを作り、好みや価値観に関する質問に対して当てはまる所へ移動する。 ② 多様性が認められる学校と、多様性が認められない学校ではそれぞれどんなことが起こるかを考え、交流する。【派生図】	ワークシート(1) 派生図のための用紙
2 本時	国や文化が違う人とも、知ることにつながりが生まれることに気づき、多様な人や国と肯定的に出会う方法を考えることができる。	① 名刺で自己紹介【アイスブレイク】 4つのお題について、自分を紹介するキーワードを書き出し、グループ内で交流する。 ② 知ることのできるようになることについて考える。出身国や文化の違いがあってもできそうなことを話し合う。【派生図】 ③ ○○国のなりきり友達紹介【ロールプレイ】 他国の子どもの情報を、仲の良い友達であるという設定でペアの子に友達紹介をする。	名刺カード 派生図のための用紙 フォトランゲージ用教材「地球の仲間たち」(ひだまり舎)
3	ベトナムの文化や、ベトナム人の生活について知り、ベトナムで日本語を勉強する子たちとの共通点・相違点を考える。	① ベトナムクイズ【クイズ・フォトランゲージ】 ベトナムでの写真から、様子を想像して答える。 ② ベトナムで日本語を勉強する子どもたちへのインタビュー映像を見て、自分との共通点や相違点に話し合う。	「わたしたちの地球と未来」(愛知県国際交流協会) インタビュー映像
4	もし自分がベトナムに転校するならどうするかを考え、少数派の思いを理解する。 多様性を認め合って暮らすために自分がどう行動するかを考える。	① もし自分がベトナムの学校に転校するとしたら、楽しみなことと困ることを考える。 【ロールプレイ】 ② 自分の行動宣言を立てる。 多様性を認め合って暮らしていくために、自分にできることを考える。	ワークシート(2)

[本時の展開 (2時間目)]

ねらい	人と関わる上で相手を知ることの良さを考える活動を通して、出身国や文化が違う人とも、知ること でつながりが生まれることに気づき、多様な人や国と肯定的に出会う方法を考えることができる。		
過程・時	教師の働きかけ・発問(○)および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
導入	<p>1. 名刺で自己紹介(アイスブレイク) 4つのお題について、自分を紹介するキーワードを書き出し、グループ内で交流する。</p> <p>① 好きなこともしくは得意なこと ② 一番楽しいと思う時間 ③ 小さい頃によくしていた遊び ④ うれしい給食メニュー</p> <p>◎仲間のことで、初めて知ったことはあったかな？ ・「知る」ことの第一歩として自分自身を知る。 ・共に生活する仲間の、知らない一面に気づく。</p> <p>2. 前時学習した「多様性を認めること」と関連づけて、学習課題を設定する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>相手を知るとどんな良いことがあるのだろう。</p> </div>	<p>・自己開示が楽しくなるようなお題を設定する。</p> <p>・自己理解が難しい児童には、自分のこれまでのことや日常生活や振り返るよう助言する。</p> <p>・多様性を認め合いながら生活するために、「知る」ことは役立ちそうかを問いかける。</p>	<p>4つのお題が書かれた名刺カード</p> <p>前時の活動で児童が作成した、多様性についての派生図</p>
展開	<p>3. 「知ることのできるようになること」について考える。 (例)相手の誕生日を知る→お祝いができる</p> <p>①グループで派生図を書きながら考えを広げる。 ②ギャラリー方式で全体交流をする。 (自分のグループにはなかった考えに印をつける。)</p> <p>・相手を知ることのできるようになることがたくさんあるということに気づく。</p> <p>◎この中で生まれた国や文化が違う相手にもできそうなことに○をつけてみよう。 →出身国や文化が違って、相手を知ることによって会話が広がったり、楽しい時間を共有したりできることに気づく。</p>	<p>・新たな考えを探す視点と、それを認め合う考え方を養う。</p> <p>・対象が海外在住の人が、日本在住の外国籍の人があえて限定しない。(外国籍児童への配慮)</p>	派生図のための模造紙
まとめ	<p>4. 振り返り 今日の学習で気づいたことや学んだこと、これからの人との関わり方でやってみたいことをワークシートに書く。</p>		ワークシート
活用	<p>5. ○○国のなりきり友達紹介(ロールプレイ) 他国の子どもの情報を読み、その子は仲の良い友達であるという設定でペアの子に友達紹介をする。</p> <p>・本時の学びをより実感するために、知ることによって遠い国の子どもともつながりが生まれることを疑似体験し、次時への意欲を高める。</p>	<p>・仲の良い友達という設定で紹介する活動を位置付けることで、可哀想という否定から入るのではなく、肯定的な出会い方をさせる。</p>	<p>ワークシート</p> <p>フォトランゲージ用教材「地球の仲間たち」(ひだまり舎)</p>
評価規準に基づく 本時の評価	相手を知ることにつながりが生まれることに気づき、出身国や文化の違う相手との肯定的な関わり方について考えることができる。(思・判・表)		

〔総括・まとめ〕

学習方法および外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・派生図やロールプレイなどを用いた、参加型学習の手法を取り入れた。 ・教師国内研修でオンライン交流をさせていただいた、NPO 法人学び舎つばさの生徒さん(ベトナム)へのインタビュー動画の視聴を行った。
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・初任者連携校研修での師範授業として、初任者6名と、校長・教頭・初任者指導に授業を参観していただいた。
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の学習内容は年間カリキュラムで決まっており、全く別分野のテーマを学年で揃えて進める中で、本実践の授業時間を確保することが難しかった。 ・第2時や第3時で考えを広げるために、グループワークで派生図を作成したが、多様性や文化の違いについてあまり学んだことのない児童たちにとっては、少し難易度が高く、学びの深まりが見られたグループとそうでないグループで差が生まれてしまった。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・早めに本実践の内容や時間数を学年の先生に共有し、組み込むことができれば、もう少し余裕をもって進めることができたと思う。また、市内の実践者の方にお話を聞いて、授業時間の確保についてご指導いただくとよかった。 ・日常の中で海外の文化について話をしたり、興味をもつ機会を増やしたりすることで、外国語の授業以外でも海外に目を向けさせることが必要だと感じた。
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国籍の児童が、外国籍の児童のルーツに興味をもち、文化や言葉について質問したり、会話をしたりして楽しむ姿が増えた。 ・一部の外国籍の児童が、自分のルーツを表に出してもいいということに気づき、自分の国のことを積極的に仲間に紹介するようになった。 ・多様性について学び、日常生活の中で、「こうでなくてはいけない」という型に捉われる考え方だけでなく、「こういう考え方もあるよね」と柔軟に対応しようとする姿勢が見られるようになった。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・「相手を知ると、仲良くなれるだけでなく、助け合いや協力ができるなど、たくさんのいいことがあると気づきました。」 ・「海外から来た人のことも、知らないままよりも知った方が面白い気がしたので、どんどん関わっていきなさいなと思いました。」 ・「文化が違っていても、できることはたくさんあるんだなと思いました。」
授業者による自由記述	<p>初めて国際理解教育の授業を行ったため、全てが挑戦だった。キャリアが浅い上に、周りに実践者がいない中で進めていくのは、思った以上に難しく、まさに少数の辛さを感じた。しかし、この思いは日本の通常学級で生活する外国籍の児童にも通ずるものがあるのかもしれないと感じた。実践前に、担任する学級の外国籍児童に話を聞いてみると、やはり「仲良くしていてもなんとなく壁がある感じがする」と答えた。本単元が終わる頃、同じ児童が、「先生、今度みんなにポルトガル語を教えてあげる時間が欲しいです。」と言いに来た。自分のルーツについて嬉しそうにみんなに話し、周りの児童も楽しそうに聞く様子を見ると、大きな成果があったと思う。今後は同僚の先生方にも授業提案ができるよう、学び続けたい。</p>
単元構想・実施における参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・すぐろくで SDGs を学ぼう(国際連合広報センター)unic.or.jp ・フオランゲージ用教材「地球の仲間たち」(ひだまり舎) ・「わたしたちの地球と未来」(愛知県国際交流協会) ・令和4年度教師国内研修で訪問した場所の写真やインタビュー映像

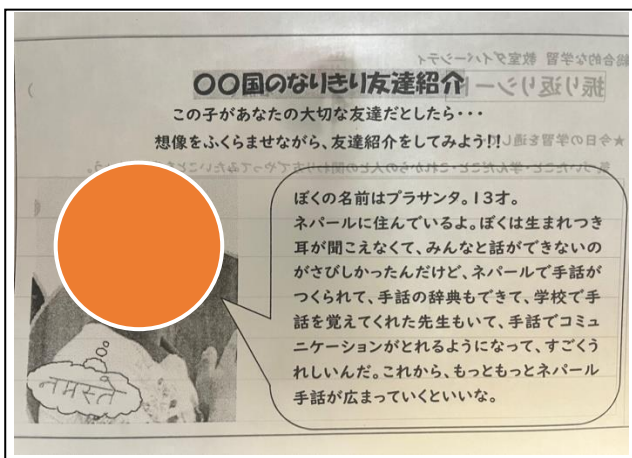
[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]



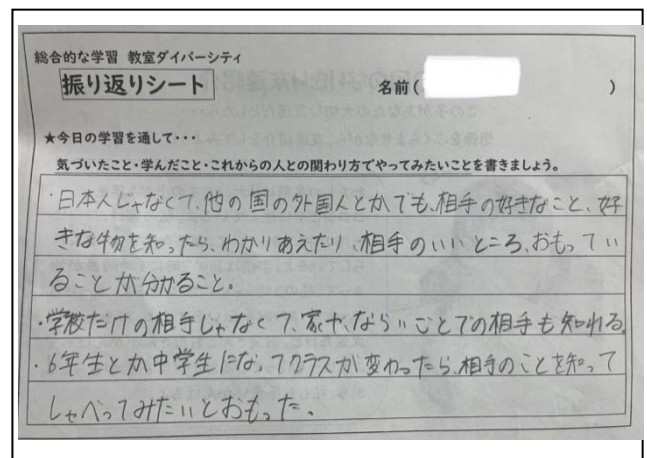
▲ 第1時 板書



▲ 第2時 グループワーク



▲ 第2時 なりきり友達紹介



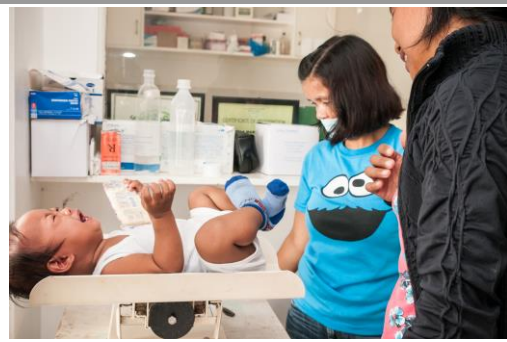
▲ 振り返り

SDGs で世界を見てみよう

学校名	愛知県総合教育センター		授業者氏名	遠山 桂吾
対象学年 (人数)	愛知県総合教育センター職員(37名)		実践年月 (時数)	2022年 10月13日 (90分)
担当教科等	全科			
単元名 (活動名)	SDGs で世界を見てみよう			
実践する 教科・領域	職員研修			
学習領域	<p>A 多文化社会 … 文化理解 (○) / 文化交流 () / 多文化共生 ()</p> <p>B グローバル社会 … 相互依存 () / 情報化 ()</p> <p>C 地球的課題 … 人権 (○) / 環境 () / 平和 () / 開発 ()</p> <p>D 未来への選択 … 歴史認識 () / 市民意識 () / 社会参加 (○)</p>			
単元目標	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs について理解を深める。 ・SDGs の視点を通して、貧困をなくすために自分にできることを考える。 			
単元の 評価規準	知識および技能	・講義やワークを通して、SDGs への理解が深まったか。		
	思考力、判断力、 表現力等	・貧困をなくすために自分にできるアクションを考え、他者に伝えられたか。		
	学びに向かう力、 人間性等	・SDGs の視点を通して、貧困以外の課題に対して自分にできることを考えようとしているか。		
単元設定の 理由・意義 (児童生徒観、 指導観、教材 観から)	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs の概要や参加型の手法を愛知県総合教育センターの職員に紹介し、今後の教員研修に活用してもらうために本研修のテーマを設定した。 ・参加型の手法は JICA 中部が実施する開発教育指導者研修(実践編)と教師国内研修を受講して学び、研修で使用する教材は教師国内研修のフィールドワークで収集した。それらを用いて愛知県総合教育センターの職員に研修を行うことで JICA 中部が実施する研修の良さをアピールすることもねらいとした。 ・今後、愛知県総合教育センターから JICA 中部への新規研修依頼増加など、2つの組織の連携がさらに深まることを期待し研修を行った。 			

[単元計画（全時間）]

時	ねらい	学習活動	資料など
1 本時	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs について理解を深める。 ・SDGs の視点を通して、貧困をなくすために自分にできることを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆SDGs の講義 <ul style="list-style-type: none"> ・SDGs の理念やポイントを解説。 ◆アイスブレイク「名刺で自己紹介」 <ul style="list-style-type: none"> ・指定された4つのテーマについて参加者自身のことを書き、自己紹介を行う。 ◆世界と肯定的に出会う <ul style="list-style-type: none"> ・フォトランゲージ、対比表の活動で、日本と似ている所・違う所を探す。 ・特定非営利活動法人アイキャンの活動を収めた動画を視聴。 ◆貧困に対するイメージ <ul style="list-style-type: none"> ・KJ 法で貧困と聞いてイメージするものを書き出す。 ◆派生図を作成 <ul style="list-style-type: none"> ・KJ法で書いた付箋を貼りながら、派生図を作成する。 ・できた派生図にSDGsシールを貼る。 ◆ギャラリー方式で共有 <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれのグループの派生図を各自で見回り、一番いけないと思うことに☆印をつける。 ◆アクションを考える <ul style="list-style-type: none"> ・派生図から自分に関わることができそうな課題・テーマを見つけ、自分にできるアクションを考える。 	<p>【参考資料】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JICA フォトライブラリー（申請をすれば写真の使用が可能。） https://www.jica.go.jp/pictures/index.html ・アイキャンの動画（教師国内研修で収集） ・アイキャン HP https://ican.or.jp/ ・JICA 中部教師海外研修ガイドブック https://www.jica.go.jp/chubu/enterprise/kaihaitsu/kaigaikenshu/2020guidebook/index.html ・SDGs シール（JICA 中部作成）



フォトランゲージで使用した写真例

[本時の展開 (1 時間目)]

ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs について理解を深める。 ・SDGs の視点を通して、貧困をなくすために自分にできることを考える。 		
過程・時	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点(支援)	資料
13:30	1. SDGs とは SDGs 講義	・参加者が捉えやすいように SDGs のポイントを4つに絞り解説。	
13:42	2. アイスブレイク 「名刺で自己紹介」 ★「紙に①呼ばれたい名前、②好きな休日の過ごし方、③楽しみにしていること、④自分と関りを感じる SDGs のゴールを書いてください。」	・グループ共有時、一人が時間を使いすぎないように声掛けをする。	
13:50	3. 世界の課題について知ろう(貧困) 【フォトランゲージ】【対比表】 ★「写真を見て、日本と似ている所・違う所を書いてください。」 ★「グループで感想を共有してください。」 ・特定非営利活動法人アイキャンのインタビュー動画を見る。 ・フィリピンの現状とアイキャンの活動紹介。 ★「今日は SDGs1 貧困にテーマを絞って考えていきます。」	・単語で簡潔に、できるだけたくさん出るように声掛けをする。 ・配付する写真は JICA フォトライブラリーを使用し、この国に行ってみたいと思うもの4枚の他に、課題と感じられるものを1枚入れる。	【参考資料】 ・JICA フォトライブラリー https://www.jica.go.jp/pictures/index.html (JICA が保管している世界各国の写真にアクセス可能。申請必要) ・アイキャンの動画(教師国内研修で収集) ・アイキャン HP https://ican.or.jp/
14:05	4. 貧困について考えよう 【KJ 法】 ★「貧困と聞いてイメージするものを付箋に書き出してください。」 【派生図】 ★「『貧困が解決されないと』と模造紙の中央に書き、そこから派生することを KJ法の付箋を貼ったり、書き足したりして、できるだけたくさんつなげてください。」 ・できた派生図に SDGs シールを貼る。 ★「それぞれのグループの派生図を見て回り、一番いけないと思うことに☆印をつけてください。」 ★「グループで感想を共有してください。」 -アクションを考える ★「派生図から自分に関わることができそうな課題・テーマを見つけ、自分にできるアクションを A4 用紙に書いてください。」 ★「グループで感想を共有してください。」	・単語で簡潔に、たくさん出るように声掛けをする。 ・SDGs シールを使って 1 つの課題にいくつかのゴールが関わっていることを視覚的に示す。 ・小さなことや身近なこと、今までにないような奇抜なアイデアでもよいことを伝える。 ・言いたくないことは言わなくてよいと伝える。	【参考資料】 ・JICA 中部教師海外研修ガイドブック https://www.jica.go.jp/chubu/enterprise/kaihatu/kaigaikenshu/2020guidebook/index.html ・SDGs シール(JICA 中部作成)
14:45	5. まとめ ・今日の気づきや感想を発表する。マイクリレーで次の発表者を指名する。		
14:50	6. JICA 事業概要		
評価規準に基づく本時の評価	<ul style="list-style-type: none"> ・講義やワークを通して、SDGs への理解が深まったか。 ・貧困をなくすために自分にできるアクションを考え、他者に伝えられたか。 ・SDGs の視点を通して、貧困以外の課題に対して自分にできることを考えようとしているか。 		

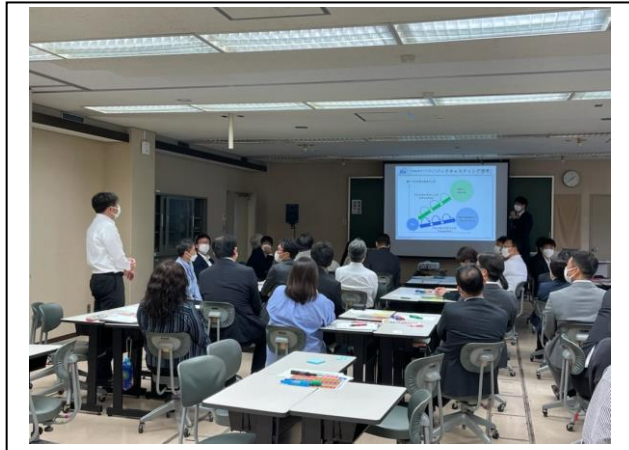
[総括・まとめ]

学習方法および外部との連携	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者が主体的に学べるように参加型の手法を中心に活動を行った。 ・参加者が SDGs に対する知識を得た後に参加型の学習へ移行できるように、研修の冒頭10分程で講義を行った。 ・私は愛知県一宮市の教員であるため、JICA 職員として愛知県総合教育センターで研修を行うこと自体が、JICA 中部、愛知県総合教育センター、所属校との連携である。
学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGs や国際協力をテーマにその他の教育センターでも教員研修を行った。 ・現在、一宮市の小学校に籍を置き1年間の研修という形で JICA 中部に勤務している。私の所属校と JICA が協力を行っているエジプトの小学校をオンラインで繋ぎ、交流会を行った。 ・オンライン国際交流会のポイントを JICA が実施するオンラインセミナーで参加者に共有した。
苦労した点	<ul style="list-style-type: none"> ・流れのあるプログラムにする点。JICA 中部内でも意見を出し合い完成させた。 ・研修実施中、参加者の声や記述内容を拾いながら進行する点。 ・ワークの最中に活動が止まってしまっているグループに対し、思考が回り出すような声掛けをする点。
改善点	<ul style="list-style-type: none"> ・1つ1つのワークの時間が短かった。プログラム全体で実施するワークの数を減らし、1つにかける時間を長く取ると良かった。 ・フォトランゲージの指示が曖昧で、参加者が少し混乱する場面があった。 ・ワークに取り組んでいる参加者へ良いタイミングで良い声掛けができると、さらに考えを深めることができた。
成果が出た点	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困にテーマを絞ったことで、参加者の SDGs に対する理解が深まった点。 ・プログラムを通して、参加者が小さなことでも自分にできることをすればよいという考えを持てた点。 ・アンケートの研修内容の質問に対して、「大変良かった」67.5%、「良かった」32.5%という結果で、良い評価が100%であった点。
学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	<ul style="list-style-type: none"> ・次ページ参照
授業者による自由記述	<ul style="list-style-type: none"> ・教師国内研修で8月にアイキャンが運営する「子どもの家」をオンライン訪問した。「子どもの家」は身寄りのない子どもや育児放棄された子どもを保護している施設である。そこで生活している子どもたちは、明るく笑顔が印象的であった。私はその姿に感銘を受け、オンライン訪問時から愛知県総合教育センターの研修に教材として使おうと決めていた。参加者から「動画がよかった。」という感想をいただき、教材として価値があったと考えている。
単元構想・実施における参考資料等	<ul style="list-style-type: none"> ・JICA フォトライブラリー(JICA が保管している世界各国の写真にアクセス可能。申請必要) https://www.jica.go.jp/pictures/index.html ・アイキャンの動画(教師国内研修で収集) ・JICA 中部教師海外研修ガイドブック https://www.jica.go.jp/chubu/enterprise/kaihatsu/kaigaikenshu/2020guidebook/index.html ・SDGs シール(JICA 中部作成)

[学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)]



▲ SDGs 講義の様子



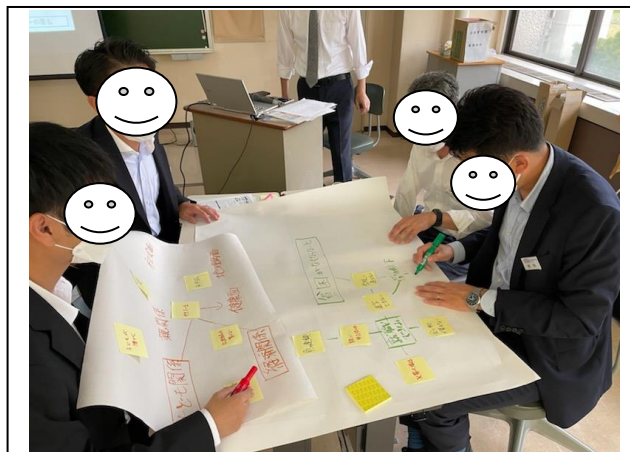
▲ 講義は参加者とコミュニケーションを取りながら進めた



▲ アイスブレイク「名刺で自己紹介」の様子



▲ 写真を見ながら対比表に記述する様子



▲ 派生図を作成する様子

- ・英語、総合の授業で応用してみたい。
- ・貧困について考える良い機会となった。
- ・SDGs についてあまり考えたことはなかったが、貧困だけでも多くのことが繋がっていると分かった。
- ・とても分かりやすくSDGsについて話を聞いたり、演習をしたりすることができた。学校でも講師に来てほしい。
- ・ワークショップで行う内容について、スライドの最後に振り返りがあったが、最初に見せると見通しをもって参加できると思う。
- ・進行がスムーズであった。
- ・グループワークがとてもよかった。説明も分かりやすかった。

▲ 参加者の感想

- ・SDGs についてより身近なものとして捉えることができるようになった。
- ・20年ほど前からアイキャンの活動に関わっていたので、久しぶりに考える機会となった。
- ・開発教育指導者研修(実践編)に参加してみたい。
- ・ワークの流れがよく練り込まれていて、楽しく学ぶことができた。充実した1.5時間であった。
- ・貧困について分かっているようで分かっていなかった。一言に貧困といっても、いろいろな視点が考えられる。
- ・貧困について改めて考えることができた。その他のゴールについても自分のアクションをしていきたい。
- ・写真は衝撃的でした。動画も良かったです。
- ・グループワークの構成、ファシリテーションの学びになった。今後の教員は身に付けたいスキルと考えている。

▲ 参加者の感想

VI. 研修全体のふりかえり・評価

※受講者に対し、全ての研修終了後に実施したアンケート結果を取りまとめた。

■ 研修への期待と満足度について

教師国内研修に対する満足度は、「とても満足できた」(60%)、「満足できた」(30%)と回答しており、満足度の高い研修であったといえる【設問1】。

設問1；本研修は、あなたの期待あるいは目標達成の支援を満足させるものでしたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても満足できた	9	75%
2	満足できた	2	17%
3	ある程度満足できた	1	8%
4	あまり満足できなかった+満足できなかった	0	0%
	全体	12	100%

設問2；満足した、あるいは満足できなかった理由や要因は何ですか。

（「とても満足できた」の回答者）

- ◇従来の教師海外研修では1ヶ国の訪問に対し、国内研修は国内での体験に限られたが、多くの国の人たちと関わることができたため、世界の現状を知る上ではとても参考になった。
- ◇現地とオンラインで交流できたから。生の声を聞けたから。また、多くの国と交流できたから。
- ◇さまざまな訪問先で知見を広げられたため。国際協力の最前線で活躍されている方々の声をたくさん聞けたから。多くの国の人々の思いに気付けたから。実践に向けて、一緒に研修した方々からも多くのご意見をいただけたから。
- ◇現地と繋がったり訪問したりしてさまざまな国の現状を知ることができたから。
- ◇多くの団体を訪問して視野が広がったから。 ◇新たな知識と手法、人脈が広がったこと。
- ◇オンラインで現地の様子や現地で活躍されている方の話を拝見したことで、活動内容はもちろん、想いや情熱を実感をもって知ることができた。世界のかわいい子どもたちと出会い、世界中の子どもたちが夢を叶えられる世界にしたい、そのために教育を通してできることをしていかなければという想いが強くなった。日本から支援をしている方たちのお話を聞いて、日本にいてもできることがたくさんあること、強い信念と行動力があれば、世界は少しずつ変えられると感じた。目の前の子どもたちがSDGsを学んでもどこか他人事に見えるのは、「ともに」という気持ちが自分にも同僚にも生徒にも足りなかったからだとわかった。
- ◇日本にいながら8か国の国々と出会い、国際協力についての自分自身の視野を広げることができたり、実践するためのたくさんの教材を集めることができたりしたから。
- ◇国内で世界に向けて支援を行っている方と出会い、その活動や思いを直接聞くことで、国際協力とは何かを学ぶことができたから。

（「満足できた」「ある程度満足できた」の回答者）

- ◇オンラインが多く、フィールドワークが少なかったので、その点が少し残念でした。
- ◇たくさんの国や団体と繋がれたらことはとてもよかったが、実際の体験的なフィールドワークは森の音楽祭のみであったので、もう少し体験ができるとよりよいと感じました。

■ 研修を受けた自分自身の意識の変化について

● 受講者の関心の高まり

受講者の100%が、受講後「より関心が高まった」と回答しており、本研修が受講者の開発教育・国際理解教育のテーマに関する情報への関心の高まりに寄与しているといえる【設問3】。

設問3；研修を通じて、人権、環境、共生、平和などに関する情報に関心を持つようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講前から関心があったが、受講後より関心が高まった	11	92%
2	受講前はあまり関心がなかったが、受講後関心が高まった	1	8%
3	受講前から関心があり、受講後も変わらない	0	0%
4	受講前はあまり関心がなかったし、受講後も変わらない	0	0%
	全体	12	100%

研修を通して、受講者全員が、地球上の課題と自分たちのつながりを意識するようになったり、国際協力のために自分にできることを考えるようになったりしたと回答している。【設問4,5】。

設問4；地球上で起きている環境や人権の問題と自分たちの生活とのつながりをより意識するようになりましたか。

設問5；国際協力（身近な買い物から直接支援まで）について自分にできることを考えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よく意識するようになった	9	75%
2	意識するようになった	3	25%
3	ある程度意識するようになった	0	0%
4	あまり意識するようにならなかった＋意識するようにならなかった	0	0%
	全体	12	100%

No.	選択肢	回答者数	割合
1	よく考えるようになった	10	83%
2	考えるようになった	2	17%
3	ある程度は考えるようになった	0	0%
4	あまり考えるようにならなかった＋考えるようにならなかった	0	0%
	全体	12	100%

■ 開発教育・国際理解教育の実践について

● 実践時間

受講者の当該教育の実践時間は、「1～4時間」が58%、「5～9時間」が42%となっている。平均では5.2時間と比較的多くの時間取り組んでいるといえる【設問6】。

本研修受講前との対比では、「前年度より増加した」が75%であり、大半の受講者が受講前よりも多い時間の実践をしている【設問7】。増加した主な理由としては、本研修の学びや契機が要因になっていることがわかる【設問8】。

設問6；開発教育・国際理解教育の実践時間

設問7；本研修受講前と比べた実践回数や機会の変化

No.	選択肢	回答者数	割合
1	1～4時間	7	58%
2	5～9時間	5	42%
3	10時間以上	0	0%
	合計実践時間数	62.5	時間
	1人当たり平均実践時間	5.2	時間/人

No.	選択肢	回答者数	割合
1	増えた	9	75%
2	変わらない	3	25%
3	減った	0	0%
	全体	12	100%

←各受講者の実践報告書に基づく。

設問 8；実践時間が増加した理由は何ですか。（主な内容）

- ◇参加型のアクティビティの手法を学び、やってみたいと思えるようになったから。
- ◇学年全体に向けた授業を計画したり、他の職員も巻き込めるようになったから。
- ◇5年生担任となり子どものできる活動の幅が広がったから。 ◇意識が変わったから。
- ◇今回の研修で参加型の手法を知ったので試してみたかったから。また、自分自身がさまざまな問題について知り、考えることが増えたため、授業でも自然と扱える内容が増えた。
- ◇昨年までは実践を行ったことがなかったから。 ◇手法を知ることができたから。
- ◇教科や領域と合わせて実践できるように自私自身がなってきたことによる。

● 実践内容

開発教育・国際理解教育の実践の内容は深まったかどうかについては、「とても深まった」58%、「深まった」25%、合わせて 83%の受講者が、実践内容が深まったとしている【設問 9】。

具体的内容としては、フィールドワークの体験、国際協力の課題や進め方への気づき、参加型手法の学びなどが深まった要因としてあげられている【設問 10】。

設問 10；どのようなことが深まりましたか。

- ◇フィールドワークを通じた経験から支援者と現地の方の思いが理解できた。
- ◇国際協力の中での工夫や苦勞を知れたため、関わる人々の思いに触れられた。課題解決のために自分ができることを考え、実践することができた。流れを意識できるようになった。
- ◇教師国内研修で出会った方のその国への愛を感じ、肯定的に出会うことが大切であると再認識できた。新しい世界の現状や自分になかった視点などが手に入り、授業に取り入れることができた。
- ◇様々なアプローチの仕方を知ったから。 ◇深まりより、広がり、かな。
- ◇子どもが意欲的に学ぶことができる教材を準備すること。
- ◇子どもたちの視野が広がり、日本にも世界にも課題があること、その課題を解決するためには支援が必要であること、自分たちにもできることがあることに気づくことができた。
- ◇今年度の実践と比べる対象がないが、子どもたちに考える種を与える実践ができたと思う。
- ◇研修で学んだことやアドバイスを頂いたことを実践でき、実生活と世界の問題を繋げて考える機会を設けることができた。ただ、思った以上に実践には準備時間、授業時間ともにかかり、生徒がゆっくり考える時間を十分にとれなかった点は反省点である。

設問 9；開発教育・国際理解教育の実践の内容は深まりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても深まった	7	58%
2	深まった	3	25%
3	ある程度深まった	2	17%
4	あまり深まらなかった+深まらなかった	0	0%
	全体	12	100%

● 参加型のスキル

参加型スキルの 1 つ目の指標①「気づきから行動へつながるプログラムの作成」については、「とても作れるようになった」8%、「作れるようになった」50%、「ある程度作れるようになった」42%であり、多くの受講者がプログラムの作成スキルがある程度向上したと認識している【設問 11】。

2 つ目の指標「学習者主体の手法の活用」については、「とても使えるようになった」25%、「使えるようになった」50%、「ある程度作れるようになった」25%であり、プログラムの作成スキルよりも多くの受講者が学習者主体の手法の活用力が向上したといえる【設問 12】。

設問 11；研修や実践を通じて、流れに沿って気づきから行動へとつながるプログラムを作れるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても作れるようになった	1	8%
2	作れるようになった	6	50%
3	ある程度作れるようになった	5	42%
4	あまり作れるようにはならなかった +作れるようにならなかった	0	0%
	全体	12	100%

設問 12；研修や実践を通じて、学習者が、主体的に考え、学習者同士が学び合えるような問いかけや参加型の手法を使えるようになりましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても使えるようになった	3	25%
2	使えるようになった	6	50%
3	ある程度使えるようになった	3	25%
4	あまり使えるようにはならなかった +使えるようにならなかった	0	0%
	全体	12	100%

プログラム作成や参加型手法の活用について、より作れるようになる、より使えるようになるために、研修でどのようなことを提供したらよいと思うか聞いた結果が以下のとおりである【設問 13】。

設問 13；より作れるようになる、より使えるようになるために、研修でどのようなことを提供したらよいと思いますか。

◇本研修においては、受講者は基本的に教えていただく側だが、実際は教員として実践者側になるので、参加型プログラムを研修の場で実践する時間もあればよかった。

◇ぜひ、海外で実践、知見と識見を高めること。

◇研修受講者が楽しいと思えるようなプログラム。

◇参加型の手法を取り入れたワークショップ、大切にしていけると良い視点の提供。

◇研修が参加型で進み体験できることが、参加型を理解する 1 番の近道だと思う。

■ 学習者の変化や周りへの波及効果について

● 学習者の変化

開発教育・国際理解教育の実践により学習者のより良い変化があったかについては、「とても変化があった」「変化があった」「ある程度変化があった」と合わせて受講者の 100%が学習者のより良い変化を実感することができている【設問 14】。

設問 14；多文化共生に係る教育の実践により学習者により良い変化がありましたか。

No.	選択肢	回答者数	割合
1	とても変化があった	4	33%
2	変化があった	5	42%
3	ある程度は変化があった	3	25%
4	あまり変化はなかった+変化はなかった	0	0%
	全体	12	100%

より良い変化の中身については、「開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった」75%、「自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった」58%、「自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切に作る意識が高まった」58%、「学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った」50%、「自分に出来る国際協力への取組みに関心を持つようになった」50%が約半数以上の回答率となっており、開発教育・国際理解教育の本筋のねらいの達成が実感されている。

また、「自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが育った」42%、「自らの生き方や共生について考えるようになった」33%、「話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつなが

った」17%といった参加型学習の導入に伴う副次的な変化の実感があった受講者も一定以上いた。

これらのことから、受講者の実践により、「様々な課題の解決に向かおうとする意識の育成」や「自己肯定感・コミュニケーション・参加協力に関わるスキルトレーニング」に関し、学習者のより良い変化が現れているといえる【設問 15】。

設問 15；学習者にどのようなより良い変化がありましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	開発途上国や国際協力に関する話題に興味や関心を持つようになった	9	75%
2	自分と他者・地域・世界のつながりを意識するようになった	7	58%
3	自分の生活を振り返り、世界の人権や環境を大切にする意識が高まった	7	58%
4	学ぶことを楽しむようになり、主体的または継続的な学びに取り組む意欲が育った	6	50%
5	自分に出来る国際協力への取組みに関心を持つようになった	6	50%
6	自分とは異なる他者への共感、周りに対する思いやりの気持ちが増えた	5	42%
7	自らの生き方や共生について考えるようになった	4	33%
8	話す・聴く能力と態度が向上し、良好な人間関係を築くことにつながった	2	17%
	全体	12	100%

● 学校や団体内の他の職員への波及

所属する学校や団体内の他の教職員に対して、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを伝えた受講者は100%であり、その具体的な方法は、「日常のやりとりの中で伝えた」が75%と一番多く、次いで「校内・団体内での報告会・研修会で伝えた」50%、「フォーラムに同僚等を誘ったなど」と「研究発表（公開授業など）で伝えた」が42%、などとなっている【設問 16】。

設問 16；所属している学校や団体内において、研修で学んだ開発教育・国際理解教育や参加型の手法などを他の教職員等に伝えましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	日常のやりとりの中で伝えた	9	75%
2	校内・団体内での報告会・研修会で伝えた	6	50%
3	フォーラムに同僚等を誘ったなど	5	42%
4	研究発表（授業公開など）で伝えた	5	42%
5	共同で教材を作成する際に伝えた	4	33%
6	どこにも伝えていない	0	0%
	全体	12	100%

● 開発教育・国際理解教育ネットワークづくりへの波及

1年間の研修や実践を通じた開発教育・国際理解教育ネットワークは、100%受講者ができたとしている。具体的内容は、「受講者同士」83%、「学校や団体内」33%、「学校・団体外」42%となっている【設問 17】。

設問 17；1年間の研修を通じて、開発教育・国際理解教育のネットワークができましたか。(複数回答)

No.	選択肢	回答者数	割合
1	受講者同士でできた	10	83%
2	学校や団体内でできた	4	33%
3	学校・団体の外にできた(フィールドワーク先など)	5	42%
4	できなかった	0	0%
	全体	12	100%

■ 全体を通して

● 教師国内研修の良かったところ＝引き続き提供を希望する内容

- ◇JICA との ZOOM や、協力隊員とのやりとり。
- ◇たくさんの国と繋がれたところ。国内の NPO 団体に訪問できたところ。
- ◇オンラインで多くの場所や専門家を繋いで話を聞けたこと。 ◇多くの団体を訪問できた。
- ◇国内にいながらにして、多くの外国と繋がることができ、直接話が聞けてよかった
- ◇さまざまな国での取組を知ることができてお得でした。実際に行ってお話を聞く機会もあり刺激が多かった。
- ◇事後研修の実践プログラム作りは、今後も継続してほしい。職場に戻ると一人で考えることが多くなるので、研修で参加者や NIED のみなさんからアドバイスをもらい安心して実践に取り組むことができた。

● 教師国内研修のより良くするための提案や希望

- ◇オンラインが多かったので、フィールドワークを増やして欲しい。 ◇国内からもできる協力の事例紹介。
- ◇実際に見る、実際に聞くことで得るものは大きいので、教師海外研修は続けていただきたい。
- ◇オンラインがずっと続くのはしんどい時もありました。ヘッドホンをし続けていると耳がかなり痛かった。
- ◇せっかく直接話ができる機会なのに、ずっと話を聞き続けている場面が多かったように思う。

● 実践報告フォーラムの良かったところ＝引き続き提供を希望する内容

- ◇実践報告フォーラムでは、参加者の実践がたくさん聞いてよかった。前日の研修でも何人かの実践が聞いたので、お得感があったし、自分も発表の練習ができた。
- ◇有志ワークショップが、とても楽しく勉強になった。研修受講者以外の方々（参加者の方々）にも、ぜひ受講してもらいたいと思った。
- ◇ポスターセッションでは、多くの実践について話を聞くことができてよかった。
- ◇国内研修の発表を簡略化して、寂しくなるかなと思いましたが、3名の代表者がすばらしい発表でよかったし、ワークショップに国内研修を生かすことができたので、よかった。
- ◇フォーラムの教師国内研修報告会の時に、写真で活動の様子を見せられるとよいかもしいと思った。

● 実践報告フォーラムのより良くするための提案や希望

- ◇午前の発表3部だけでは全員の実践を聞くことができなかったため、何かしら聞くことができなかった実践者の取り組み、特に掲示物が拝見出来たらいいと思う。
- ◇全員の話聞くのは難しいかもしれませんが、ポスターを見る時間があたらうれしいです。
- ◇発表を9人聞くのは大変。6人聞いて残り時間発表者は模造紙前で待機して、適宜質問に答えるのはどうか。
- ◇実践報告が1人3回だったが、2回でも良かった。聞く方も発表する方も大変だと感じた。
- ◇話を聞くのは6人くらいがちょうどいいかと個人的には感じた。
- ◇国内研修メンバーの発表ターンが多く重なっていて、聞くことができなかったのは少し残念だった。
- ◇来年度は海外研修なので、以前のような発表を聞きたい気もする。

2022年度 教師国内研修報告書

発 行 2023年3月

発 行 者 独立行政法人国際協力機構 中部センター（JICA 中部）

〒453-0872 名古屋市中村区平池町4丁目60-7

Tel : 052-533-0220（代表） Fax : 052-564-3751

<http://www.jica.go.jp/chubu/>
